マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

セットアップガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- Q&A集（電源が入らないとき）
- リカバリー（再セットアップ）
- 廃棄／譲渡

など

取扱説明書

- 電源の入れかた
- 電源の切りかた
- 各部の名前
- メモリの取り付け／取りはずし
- バッテリーパックの交換
- システム環境の変更とは

など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリー駆動で使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集

など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに - 7 リリース情報について」

もくじ

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

⚠危 険	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取り扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 ● このマニュアルへの参照の場合…「　」 ● ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『　』

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 傷害とは、治療に入院・長期の通院を要さない、けが、やけど（高温・低温）、感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 7

特に説明がない場合は、Windows® 7 Professional を示します。

ドライブ

DVDスーパーマルチドライブを示します。

ドライブ搭載モデル

DVDスーパーマルチドライブを搭載しているモデルを示します。

無線LAN機能搭載モデル

無線LAN機能を搭載しているモデルを示します。

WiMAX機能搭載モデル

WiMAX機能を搭載しているモデルを示します。

Bluetooth機能搭載モデル

Bluetooth機能を搭載しているモデルを示します。

Webカメラ搭載モデル

Webカメラを搭載しているモデルを示します。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは本体のハードディスクや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み替えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Live、Windows Media、Aero、MSN、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
  その他記載されている会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Core、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- SDロゴは商標です。（ ）
- SDHCロゴは商標です。（ ）
- SDXCロゴは商標です。（ ）
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia InterfaceおよびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの登録商標または商標です。
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターおよびウイルスバスタークラウドは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- WiMAXは、WiMAXフォーラムの商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。
64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS（オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバーがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバーおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

8 お願い

- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS)、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは『セットアップガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 本体のハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS)、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品の画像データは、本製品上で壁紙に使用する以外の用途を禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルなどは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新の状態で使用する必要があります。本製品に用意されている「ウイルスバスター」は、インターネットに接続していると自動的に最新の状態に更新されますが、90日間の使用制限があります。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
  ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、ほかのウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『ソフトウェアに関する注意事項』、Windowsのセットアップ時に表示されるライセンス条項およびエンドユーザー使用許諾契約書をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

9 [ユーザーアカウント制御] 画面について

操作の途中で[ユーザーアカウント制御]画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

10 映像／音楽関連の機能を使用するにあたって

❏映像を扱うアプリケーションについて

映像を扱うアプリケーションの使用中に、スリープ／休止状態への移行を行わないようにしてください。
エラーメッセージが表示されたり、アプリケーションが終了したりする場合があります。
その場合は、使用したいアプリケーションを再度起動してください。

11 H.264/AVC, VC-1and MPEG-4ライセンスについて

本製品は、AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL規格特許ライセンスのもとで、個人的利用および非商業利用目的に限り、お客様が以下のいずれか、または両方の使用を行うことが許諾されています。(i) AVC、VC-1、MPEG-4 VISUAL標準規格に従いビデオをエンコードすること(以下「AVCビデオ」、「VC-1ビデオ」、「MPEG-4ビデオ」という)、(ii) 個人的、非商業的行為においてお客様によりエンコードされた、または／およびAVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオを提供するためにMPEG LAからライセンスを受けたビデオ提供者から取得した、AVCビデオ、VC-1ビデオ、MPEG-4ビデオをデコードすること。ほかの使用についてはライセンスを許諾されていません。上記以外の販売、社内利用および商業的利用など利用／許諾に関する情報については、MPEG LAのHP (http://www.mpegla.com) より入手いただけます。

● H.264/AVC, VC-1 and MPEG-4 License Notice

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC, THE VC-1 AND MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER FOR (i)ENCODING VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE ABOVE STANDARDS ("VIDEO") AND/OR (ii)DECODING AVC, VC-1AND MPEG-4 VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED BY MPEG LA TO PROVIDE SUCH VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION INCLUDING THAT RELATING TO PROMOTIONAL, INTERNAL AND COMMERCIAL USES AND LICENSING MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA,L.L.C. SEE http://www.mpegla.com

1章

使いはじめる前に

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

1 前のパソコンのデータを移行する
－PC引越ナビ－

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手順を簡略化することができるアプリケーションです。
ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「新しいパソコン」として説明します。

環境を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

Windows XP／Windows Vista／Windows 7

＊マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。

システムの正式名称は次のとおりです。

Windows XP............Microsoft® Windows® XP operating system 日本語版の全エディション
Windows Vista.........Microsoft® Windows Vista® の全エディション
Windows 7...............Microsoft® Windows® 7の全エディション

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、「付録 1 - 1 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

■使用できる環境を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- USBフラッシュメモリを使用する
- USBフラッシュメモリとネットワーク（有線LAN）を使用する
- USBフラッシュメモリとクロスケーブル（有線LAN）を使用する
- USBフラッシュメモリとDVDを使用する＊1

＊1 ドライブ搭載モデルのみ

前のパソコンと、新しいパソコンの仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

前のパソコンでどの方法が使用できるかを確認し、USBフラッシュメモリやネットワーク用のケーブル、DVDが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なUSBフラッシュメモリは、あらかじめフォーマットしてください。

- USBフラッシュメモリのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。
  移行するファイルや設定内容に比べて、USBフラッシュメモリの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のUSBフラッシュメモリを移行用に使用することをおすすめします。
- USBフラッシュメモリの代わりに、メディアカードを使用することもできます。
  本製品で使用できるメディアカードについては、「2章 9 いろいろなメディアカードを使う」で確認してください。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」を起動したときの、ユーザーの設定とデータを移行できます。

- **Internet Explorerの設定**[＊1]
- **Windows Live メール（Windows メール、Outlook Express）の設定**[＊2＊4]
- **Microsoft Outlookの設定**[＊3＊4]
- **［ドキュメント］（または［マイドキュメント］）フォルダーに保存されているファイル**
- **デスクトップ上のファイル**
- **任意のフォルダーに含まれるファイル**

＊1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1以上

＊2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express（バージョンが6.0 SP1以上）」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のデータです。

＊3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のデータです。
本製品には、Office搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。前のパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータをOfficeが搭載されていないモデルに移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に、市販の「Microsoft Outlook」を新しいパソコンにインストールする必要があります。
移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。

＊4 新しいパソコンにメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。
「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート（取り込み）を行います。
メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。
詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。

メモ

- 移行できる設定やデータの詳細は、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

1 インストール方法

「PC引越ナビ」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする**

2 **［セットアップ画面へ］をクリックする**

3 **［アプリケーション］タブをクリックする**

4 **画面左側の［PC引越ナビ］をクリックし、［「PC引越ナビ」のセットアップ］をクリックする**

5 **画面の指示に従ってインストールする**

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 起動方法

1 **デスクトップ上の［PC引越ナビ］（ ）をダブルクリックする**

「PC引越ナビ」が起動します。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［PC引越ナビ］をクリックして起動することもできます。

2 **画面下の［ヘルプ？］ボタンをクリックし、注意制限事項を確認する**

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。
目次で［注意制限事項とメッセージ］をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

3 **［同意する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする**

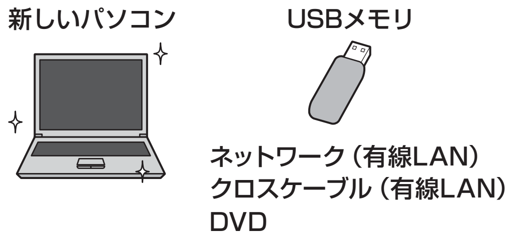
使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。
注意事項が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックしてください。

引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しなから、操作してください。

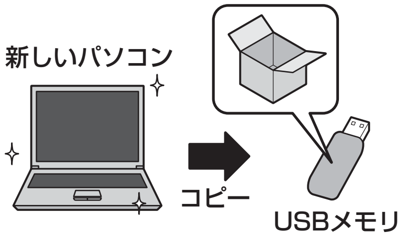
3 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで操作の詳細は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
新しいパソコンと前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

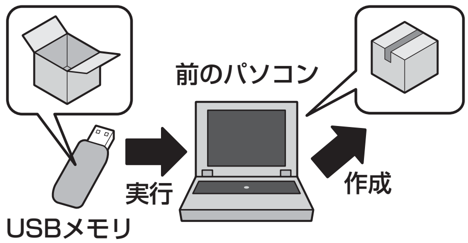
移行方法を決める
いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと新しいパソコンの仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。



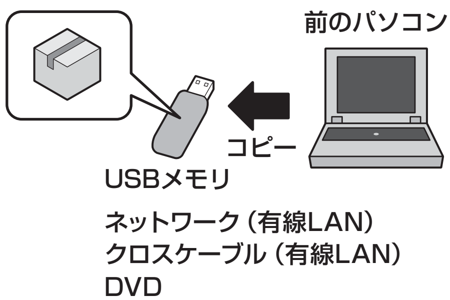
「こん包プログラム」をコピーする
「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
USBフラッシュメモリにコピーしてください。



「こん包プログラム」を実行する
コピーした「こん包プログラム」を前のパソコンで実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。

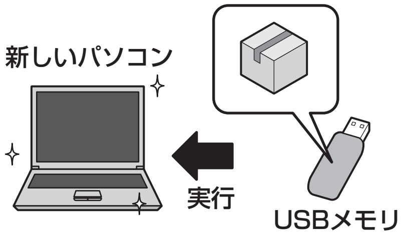


「こん包ファイル」をコピーする
作成した「こん包ファイル」をコピーします。
移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。



「こん包ファイル」を開こんする

コピーした「こん包ファイル」を新しいパソコンで開き、コピーします。



2 リカバリーメディアを作る

本製品には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリー（再セットアップ）ツールが搭載されています。
リカバリーDVD-ROMが付属していないモデルの場合、「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使って、あらかじめ、リカバリーツールのバックアップをとっておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。
作成したリカバリーメディアは大切に保管してください。
何らかのトラブルでハードディスクドライブからリカバリーできない場合でも、リカバリーメディアからリカバリーをすることができるようになります。
リカバリーメディアがない状態で、ハードディスクドライブからリカバリーが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。東芝PCあんしんサポートに相談してください。

■リカバリー（再セットアップ）とは

リカバリー（再セットアップ）をすると、ハードディスクドライブ内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windowsログオンパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。
詳しくは、『セットアップガイド』を参照してください。
また、データのバックアップについては、普段から定期的に行っておくことをおすすめします。

リカバリーメディアを作成できる記録メディア

「TOSHIBA Recovery Media Creator」では、次の記録メディアのいずれかを使用できます。何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

- USBフラッシュメモリ（容量32GBまでのUSBフラッシュメモリが使用できます。）
- 記録用のDVDメディア*1（DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW）

＊1 ドライブを搭載していないモデルの場合は、外付けのDVDドライブ（市販品）を接続すると、DVDを使用できます。

［TOSHIBA Recovery Media Creator］画面の［メディア構成］で記録メディアの種類を選択すると、［情報］に、必要な記録メディアの枚数や容量が表示されます。
DVDの場合は、必要な枚数が表示されます。複数枚使用する場合は、同じ規格の記録メディアで統一してください。
USBフラッシュメモリの場合は、リカバリーメディアの作成に最低限必要な容量が表示されます。表示される容量より大きい容量のUSBフラッシュメモリを用意してください。

お願い DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

＊ 使用できるDVD記録メディアについては、「付録 2 - 2 使えるDVDを確認しよう」を確認してください。
外付けのDVDドライブ（市販品）を使用して作成する場合は、『DVDドライブに付属の説明書』を確認してください。

- 推奨するメーカーのDVDを使用してください。規格に準拠したDVDを使用してください。
- 外付けのDVDドライブ（市販品）で使用できるDVDについては、『DVDドライブに付属の説明書』を確認してください。

お願い リカバリーメディアの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」ではDVD-RAMを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

DVDまたはUSBフラッシュメモリに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したメディアの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、メディアに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

  参照 DVDについて「付録 2 - 2 使えるDVDを確認しよう」、
  『DVDドライブに付属の説明書』
- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

  参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・スクリーンセーバー
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・音楽や映像の再生アプリケーション
  - ・LANなどの通信アプリケーション　　など

  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

  参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」
- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。

リカバリーメディアを作成するには、以降の説明を参照してください。

1 インストール方法

「TOSHIBA Recovery Media Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする**

2 **［セットアップ画面へ］をクリックする**

3 **［ユーティリティ］タブをクリックする**

4 **画面左側の［TOSHIBA Recovery Media Creator］をクリックし、［「TOSHIBA Recovery Media Creator」のセットアップ］をクリックする**

5 **画面の指示に従ってインストールする**

「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 リカバリーメディアを作成する

外付けのDVD ドライブ（市販品）でDVDのリカバリーメディアを作成する場合は、あらかじめDVD ドライブをパソコン本体に接続しておいてください。

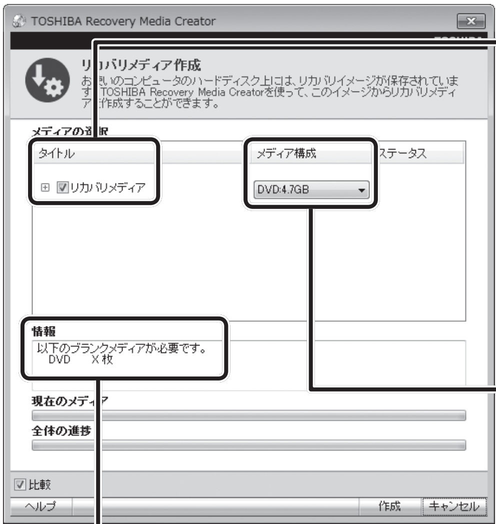
参照 接続方法『DVD ドライブに付属の説明書』

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［サポート＆リカバリー］→［リカバリーメディア作成ツール］をクリックする

「TOSHIBA Recovery Media Creator」が起動します。

2 ［タイトル］、［メディア構成］を選択する

［情報］に、必要なDVDの枚数やUSBフラッシュメモリの容量が表示されるので、用意してください。



（表示例）

タイトル
チェックボックスにチェックがついている（☑）リカバリーメディアを作成します。
⊞をクリックすると作成するリカバリーメディアの一覧が表示されます。
作成する必要のないリカバリーメディアは、チェックをはずしてください。

メディア構成
作成する記録メディアの種類を選択します。

情報
DVDの場合、画面に表示される枚数分が必要になります。
USBフラッシュメモリの場合、画面に表示される容量が必要になります。

3 ［作成］ボタンをクリックする

作成するリカバリーメディアの確認と記録メディアのセットを求める画面が表示されます。

4 DVDまたはUSBフラッシュメモリをセットする

参照 DVDのセット「2章 6 - 3 CD／DVDを使うとき（セット）」、
『DVDドライブに付属の説明書』

参照 USBフラッシュメモリ「4章 2 USB対応機器を使う」

5 ［OK］ボタンをクリックする

作成が開始され、［現在のメディア］に、作成しているリカバリーメディアの進捗状況が表示されます。
作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

DVDの場合、作成が終了すると、記録メディアが自動的に出てきます。
作成するメディアが複数枚ある場合は、メッセージに従って記録メディアを入れ替えてください。

6 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

作成したリカバリーメディアには、次のことがわかるように目印をつけてください。

- 「リカバリーメディアであること」
- 複数枚ある場合は、番号

たとえばDVDの場合、「リカバリーメディアXX（番号）」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。リカバリーをするとき、この番号の順にリカバリーメディアを使用しないと、正しくリカバリーされません。必ずリカバリーメディア番号がわかるようにして保管してください。

7 ［閉じる］ボタン（）をクリックする

［TOSHIBA Recovery Media Creator］画面が閉じ、リカバリーメディアの作成を終了します。

リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順については、『セットアップガイド』を参照してください。

ヘルプの起動方法

1 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする

参照 「TOSHIBA Recovery Media Creator」のお問い合わせ先
『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

● **ユーザーパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

パスワードを入力してください

設定したユーザーパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

参照 パスワードについて「6章 2 パスワードセキュリティ」

● **HDDパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

HDD/SSDのパスワードを入力してください

設定したHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

メモ

- パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
  電源を入れ直してください。
- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

参照 パスワードについて「6章 2 パスワードセキュリティ」

■メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、本体のハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

■一時的に変更する

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 電源スイッチを押し、製品ロゴが表示されている間にF12キーを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。

2 起動したいドライブを↑または↓キーで選択し、ENTERキーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

お願い

- <HDDリカバリー>は選択しないでください。HDDリカバリーを実行すると、ハードディスクドライブ内に保存されているデータはすべて消去されます。
  間違えて選択してしまった場合、メッセージが表示されますので［いいえ］を選択してください。電源が切れるので、手順 1 からやり直してください。
  HDDリカバリー（ハードディスクドライブからのリカバリー）については、『セットアップガイド』を確認してください。

■あらかじめ設定しておく

「東芝HWセットアップ」の［OSの起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「東芝HWセットアップ」のヘルプ

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

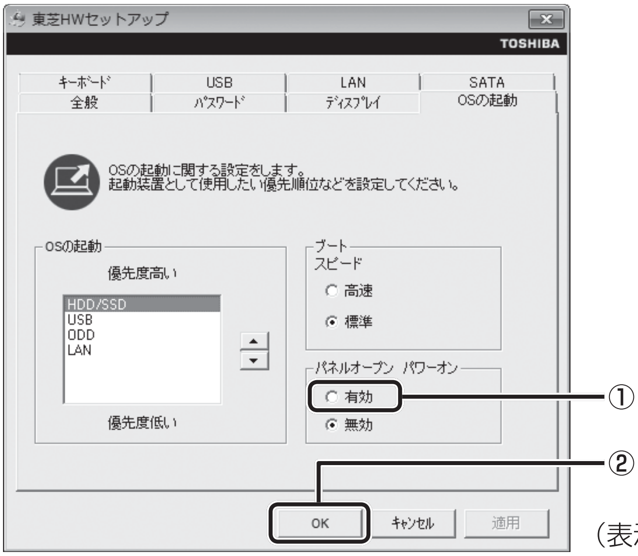
3 ディスプレイを開くと、電源が入るようにする

パネルオープンパワーオン機能を有効に設定した場合、ディスプレイを開くと、自動的にパソコンの電源が入るようになります。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［ecoユーティリティ&省電力］→［パネルオープンパワーオン］をクリックする

「東芝HWセットアップ」が起動します。

2 ［OSの起動］タブの［パネルオープン パワーオン］で［有効］を選択し①、［OK］ボタンをクリックする②



（表示例）

＊ モデルによって表示される画面が異なります。

2 使い終わったら

パソコンを使い終わったときは、電源を完全に切る「シャットダウン」を行ってください。

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

パソコンの使用を一時的に中断したいときは、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

⚠ 警 告

- 電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線通信機能は、FN＋F8キーを押してOFFにすることができます。FN＋F8キーを押して無線通信機能をOFFに設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態、または高速スタートモード*1で待機中（高速スタートモードで電源を切ったとき）でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ・ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

＊1 東芝高速スタート搭載モデルのみ

お願い 操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、記録メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行すると、データの書き込みが正しく行われません。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、SDメモリカードやUSB接続型の外付けハードディスクドライブなどとのデータの読み出し、保存（書き込み）が完全に終了していることを確認してください。
  データのアクセス途中でスリープを実行すると、データの読み出し、保存が正しく行われません。

中断したときは

- スリープ中や休止状態では、バッテリーやメモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。
  ・保存されていないデータは消失します。
  ・感電、故障のおそれがあります。
  ・次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  また、スリープ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを５秒間押していったん電源を切ったあとで、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

ハイブリッド スリープのときは

- ハイブリッド スリープを有効にしているとき、スリープを実行するとすぐに画面は真っ暗になりますが、しばらくの間はハードディスクドライブへのデータ保存が行われています。ハードディスクドライブへのアクセス中は、パソコン本体を動かさないでください。

1 スリープ

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。次に電源スイッチを押したときに、すばやく中断したときの状態を再現することができます。
スリープ中はバッテリーを消耗しますので、電源コードとACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなったときは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。

参照 ハイブリッド スリープ「本項 2 スリープ機能を強化する」

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

1 スリープの実行方法

1 ［スタート］ボタンをクリックする



2  ボタンをクリックし①、表示されたメニューから［スリープ］をクリックする②



スリープ状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- FN＋F3キーを押して、スリープを実行することもできます。

2 スリープ機能を強化する

通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能が用意されています。
パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッド スリープはメモリとハードディスクの両方に保存します。
作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッド スリープを有効にしておくと、ハードディスクから作業内容を復元できます。ハイブリッド スリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。この場合は、スリープを実行してからスリープ状態になるまでの時間が長くなります。
またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

参照 休止状態に移行する設定について「本項の「役立つ操作集」」

ハイブリッド スリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

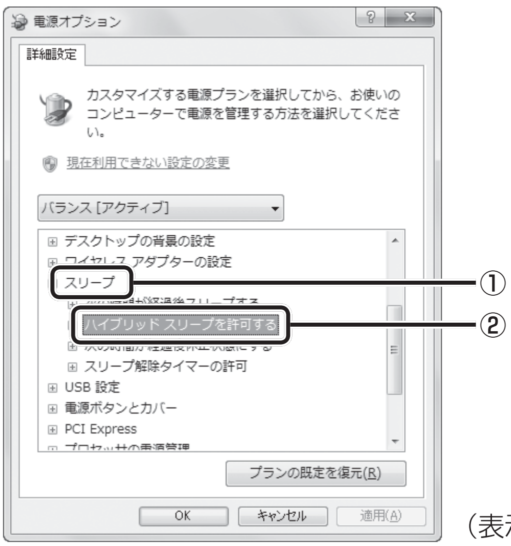
2 ［ハードウェアとサウンド］→［電源オプション］をクリックし、選択している電源プランの［プラン設定の変更］をクリックする

［プラン設定の変更］は、各電源プランの右端に表示されています。選択している電源プランの［プラン設定の変更］をクリックしてください。
ハイブリッド スリープの設定は、電源プランごとに必要です。
［プラン設定の編集］画面が表示されます。

3 ［詳細な電源設定の変更］をクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 ［スリープ］をダブルクリックし①、表示される項目から［ハイブリッド スリープを許可する］をダブルクリックする②



（表示例）

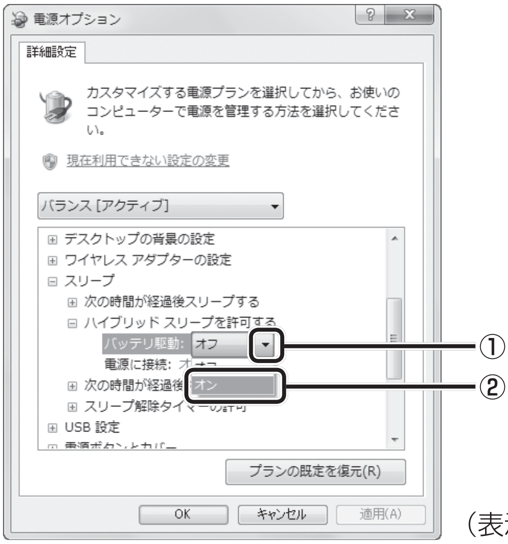
5 **ハイブリッド スリープをONにしたい項目（[バッテリ駆動]／[電源に接続]）をクリックする**

それぞれの項目は、次のようになります。

[バッテリ駆動]：バッテリー駆動時の、ハイブリッド スリープ機能のON／OFFを設定できます。

[電源に接続]：電源に接続しているときの、ハイブリッド スリープ機能のON／OFFを設定できます。

6 **項目の横に表示された ▼ をクリックし①、表示されたメニューから［オン］をクリックする②**



（表示例）

7 **[OK] ボタンをクリックする**

これでハイブリッド スリープを有効にする設定は完了です。
この状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。

役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。
[詳細設定] 画面で [次の時間が経過後休止状態にする] をダブルクリックし、表示された項目を選択して▲ ▼で時間を設定してください。
スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照 休止状態『Windows ヘルプとサポート』

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

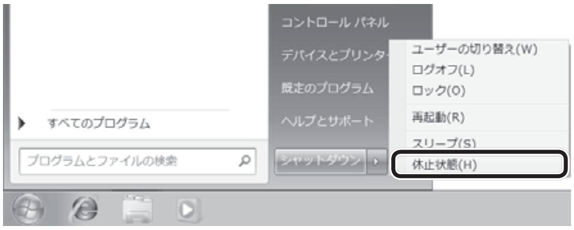
1 休止状態の実行方法

1 ［スタート］ボタン（ ）をクリックし①、 にポインターを合わせる②



2 表示されたメニューから［休止状態］をクリックする

メニューが表示されない場合は、 をクリックしてください。



（表示例）

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- FN ＋ F4 キーを押して、休止状態を実行することもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作しないで、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源OFF）、またはスリープ／休止状態にすることができます。
また、「東芝高速スタート」の高速スタートモードを実行することもできます*[1]。

＊1 東芝高速スタート搭載モデルのみ

参照 「本節 4 東芝高速スタートを使う」

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ システムとセキュリティ］をクリックする

3 ［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする

4 ［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 ［変更の保存］ボタンをクリックする

パソコン本体の電源スイッチを押すと、手順 4 で設定した状態へ移行します。

2 ディスプレイを閉じたときの動作の設定

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする**

2 **［ システムとセキュリティ］をクリックする**

3 **［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする**

4 **［カバーを閉じたときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する**

［何もしない］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 **［変更の保存］ボタンをクリックする**

ディスプレイを閉じると、手順 4 で設定した状態へ移行します。
［スリープ状態］［休止状態］に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

メモ

- ディスプレイを閉じることによって［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

4 東芝高速スタートを使う

＊東芝高速スタート搭載モデルのみ

「東芝高速スタート」で高速スタートモードを実行してパソコン本体の電源を切ると、次に電源を入れたときに、Windowsの起動を高速に行うことができます。

お願い

- 高速スタートモードで待機中（高速スタートモードで電源を切ったとき）は、メモリの増設や交換を行わないでください。故障のおそれがあります。
- 起動時に実行されるソフトウェアの状況によっては起動に時間がかかることがあります。
- 複数のユーザーアカウントで共有している場合、各ユーザーが使用しているソフトウェア環境によって通常起動よりも遅くなることがあります。
- 高速スタートモードは、本体のハードディスクドライブからの起動のみ対応します。
- Windows Update、ドライバー、アプリケーションのインストール、ソフトウェアのアップデート後など、再起動が必要な場合は、必ず「シャットダウン」あるいは「再起動」を実行してください。高速スタートモードでは、変更が適用されません。
- 高速スタートモードを使用する際は、すべてのアプリケーションを終了してから使用してください。
- BIOSセットアップを使用する場合は、高速スタートモードを使わず、「シャットダウン」でWindowsを終了してからBIOSセットアップを起動してください。
- パスワード（ユーザーパスワード、HDDパスワード）を設定している場合、必ず本製品のキーボードから入力してください。
- 高速スタートモードで起動したときに、BIOSセットアップで設定できる項目は制限があります。
- 高速スタートモードで起動したときは、画面に製品ロゴが表示されている間、右下に東芝高速スタートのアイコン（ ）が表示されます。

1 高速スタートモードの準備

初めて「東芝高速スタート」を使用するときは、次のように設定してください。

1 **[スタート]ボタン（  ）→［すべてのプログラム］→［ecoユーティリティ＆省電力］→［高速スタートの設定］をクリックする**

2 **「スタートメニューに表示する」をチェックし、［OK］ボタンをクリックする**

［スタート］メニューに「東芝高速スタート」が追加され、常に表示されます。



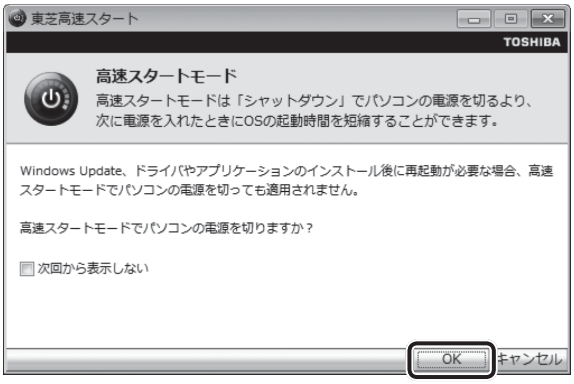
（表示例）

2 高速スタートモードの実行方法

1 ［スタート］ボタン（ ）をクリックし、［高速スタートモード］をクリックする

［東芝高速スタート］画面が表示されます。［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［ecoユーティリティ＆省電力］→［高速スタートモード］をクリックして表示することもできます。

2 ［OK］ボタンをクリックする



パソコン本体の電源が切れます。次に電源スイッチを押すと、高速でWindowsを起動することができます。

3 簡単に高速スタートモードで電源を切る

［スタート］メニューから操作しないでパソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、「東芝高速スタート」の高速スタートモードを実行することもできます。
あらかじめ、「電源オプション」の［電源ボタンを押したときの動作］または［カバーを閉じたときの動作］で、［高速スタートモード］を設定する必要があります。

参照 簡単に電源を切る「本節 3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

［カバーを閉じたときの動作］で［高速スタートモード］を設定した場合、ディスプレイを閉じると、高速スタートモードで電源を切ります。
このとき、次にディスプレイを開いても、自動的に高速スタートモードでWindowsを起動することはできません。
ディスプレイを開いたときに、自動的に高速スタートモードでWindowsを起動するには、パネルオープンパワーオン機能を有効に設定したうえで、高速スタートモードを実行してください。

参照 パネルオープンパワーオン機能
「本章 1 - 3 ディスプレイを開くと、電源が入るようにする」

3 タッチパッド

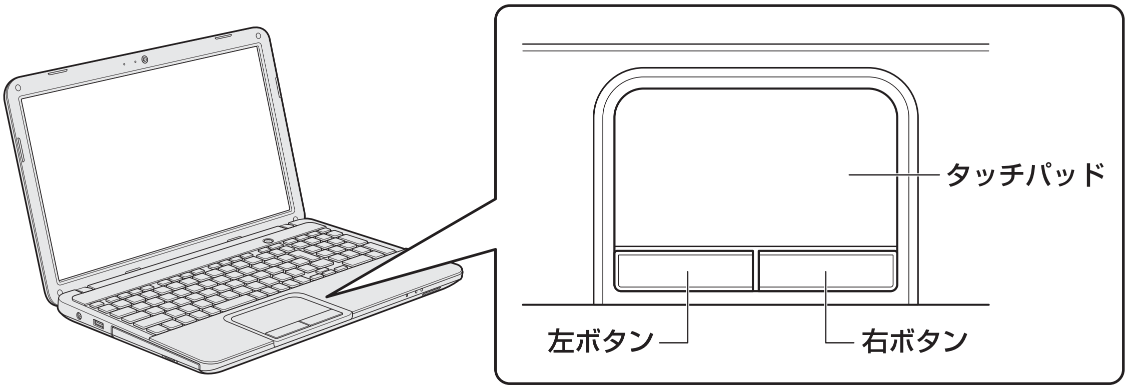
1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインター」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインターを動かし、パソコンを操作してみましょう。ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

お願い タッチパッドの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 2 - タッチパッドの操作にあたって」を確認してください。

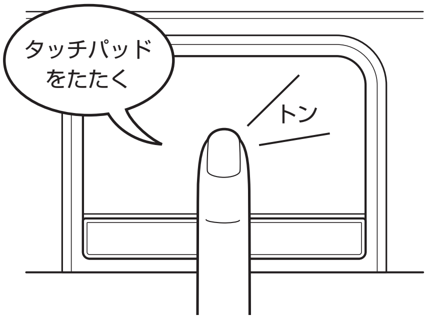


1 タッピングの方法

タッチパッドを指で軽くたたくことを「タッピング」といいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

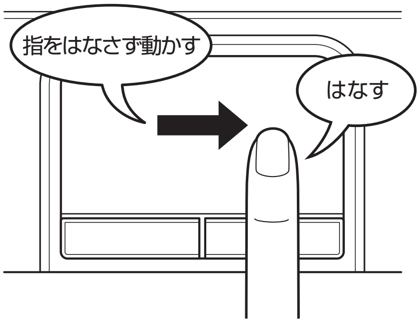
❏ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



❏ ドラッグアンドドロップ

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。



2 タッチパッドの使用環境を設定する

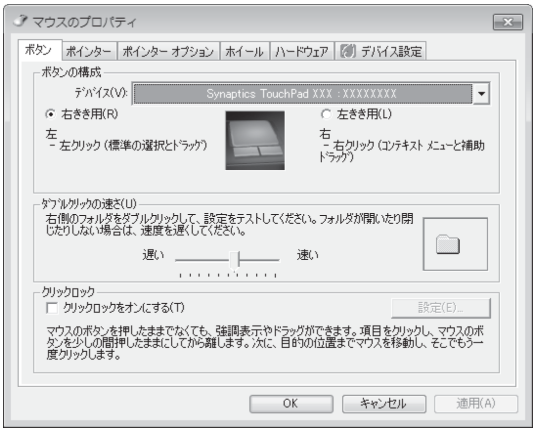
タッチパッドやポインターの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

1 ［マウスのプロパティ］の起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする

［マウスのプロパティ］画面が表示されます。



（表示例）

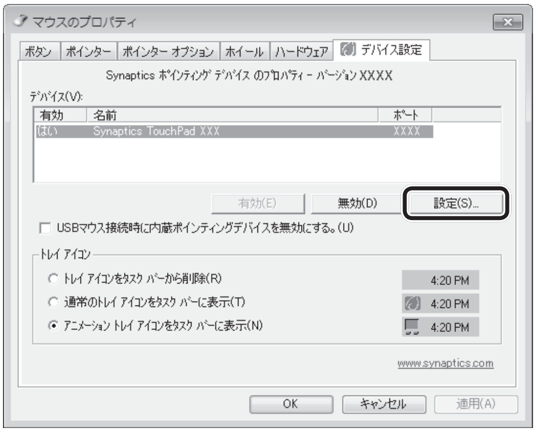
2 設定方法

1 ［マウスのプロパティ］画面の各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

［マウスのプロパティ］では、タッチパッドやポインターなどの各種設定ができます。
タッチパッドの設定をするには、引き続き次のように操作してください。

2 ［デバイス設定］タブで［設定］ボタンをクリックする

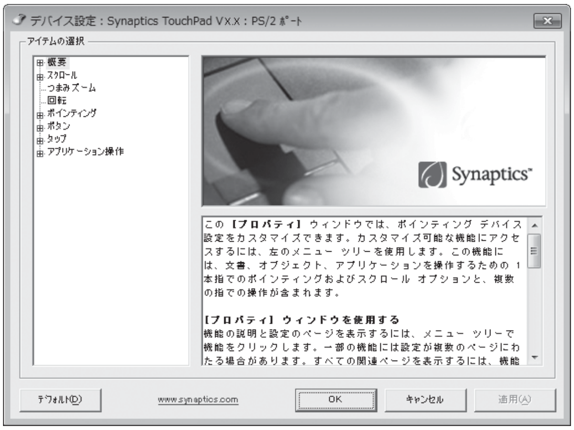


（表示例）

［デバイス設定］画面が表示されます。

3 画面左側に表示されているメニューから、設定したい項目をクリックする

画面右側に、選択した項目の設定内容と、その説明が表示されます。説明をよく読んで各項目を設定してください。
項目名の左に（ ⊞ ）が表示されている場合、項目名をダブルクリックすると、さらに細かい設定項目が表示されます。



（表示例）

メモ

- 本製品のタッチパッドには、ジェスチャーコントロール機能があります。
  指の動きを使って、タッチパッドで次の操作ができます。
  ・1本指／2本指での上下左右へのスクロール
  ・文字や画像を拡大／縮小する（つまみズーム）
  ・画像を回転する
  詳しくは、手順 3 で設定したい項目を選択し、表示された説明を確認してください。

役立つ操作集

タッチパッドを有効／無効にするには

キー操作でタッチパッドの有効／無効を切り替えることができます。

① FN＋F9キーを押す
　［タッチパッド］のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［有効］または［無効］アイコンが大きい状態で指をはなす

FN＋F9キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから指をはなしてから行ってください。
FN＋F9キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、一度タッチパッドから指をはなしてください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

USB対応マウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする

USB対応マウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

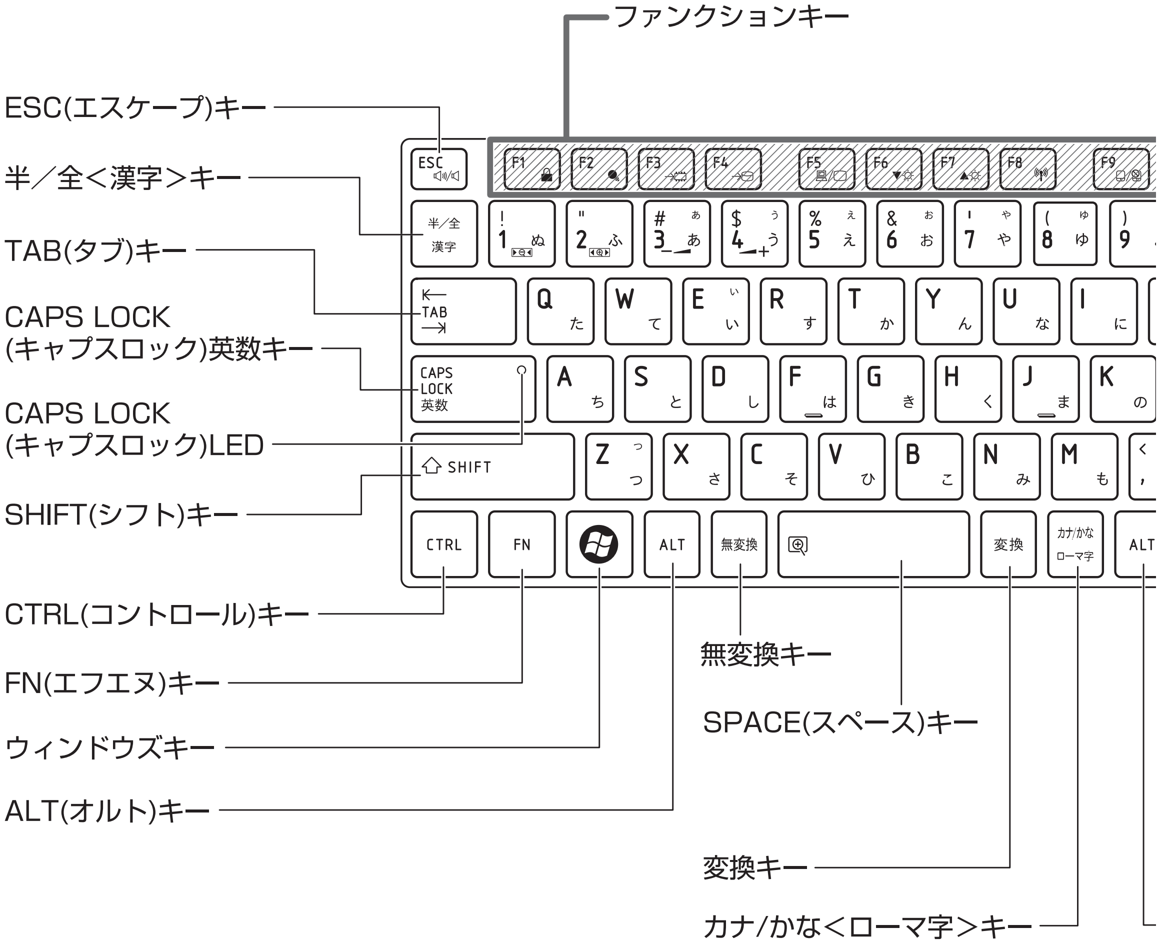
① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
③ ［デバイス設定］タブで［USBマウス接続時に内蔵ポインティングデバイスを無効にする。］をチェックする
④ ［OK］ボタンをクリックする

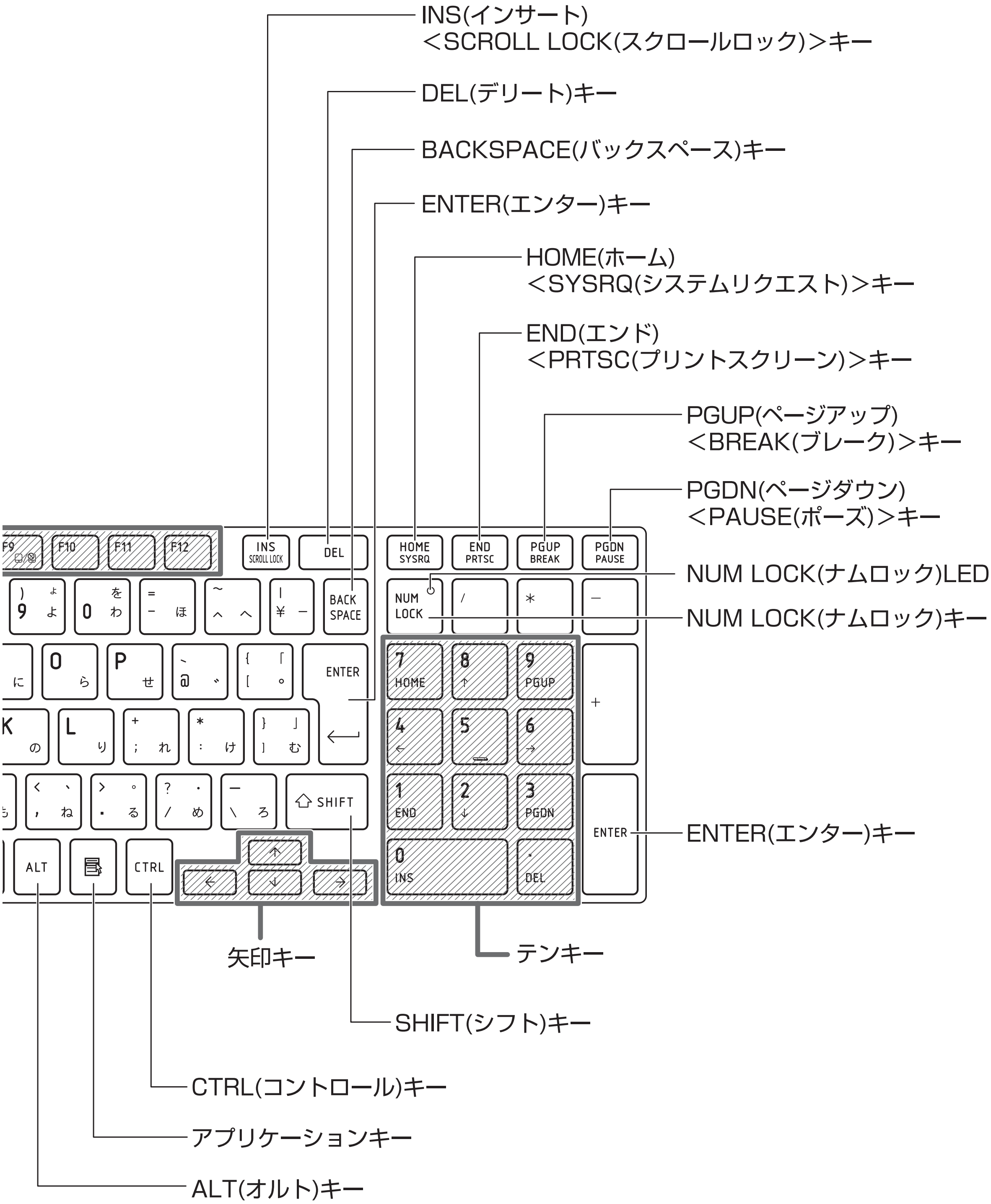
FN＋F9キーを押して設定する「タッチパッドON／OFF機能」とは連動していません。
市販のUSB対応マウスをお使いの場合、マウスの種類によっては、本機能が動作しない場合があります。

4 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

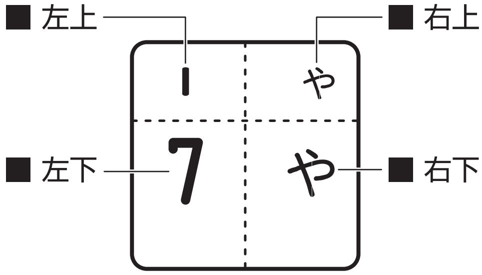
1 キーボード図




INS(インサート)
<SCROLL LOCK(スクロールロック)>キー
DEL(デリート)キー
BACKSPACE(バックスペース)キー
ENTER(エンター)キー
HOME(ホーム)
<SYSRQ(システムリクエスト)>キー
END(エンド)
<PRTSC(プリントスクリーン)>キー
PGUP(ページアップ)
<BREAK(ブレーク)>キー
PGDN(ページダウン)
<PAUSE(ポーズ)>キー
NUM LOCK(ナムロック)LED
NUM LOCK(ナムロック)キー
ENTER(エンター)キー
矢印キー
テンキー
SHIFT(シフト)キー
CTRL(コントロール)キー
アプリケーションキー
ALT(オルト)キー

2 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。キーボードの文字入力の状態によって、入力できる文字や記号が変わります。



左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。 SHIFT キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態で SHIFT キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（そくおん）（小さい「っ」）、拗音（ようおん）（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）が入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。

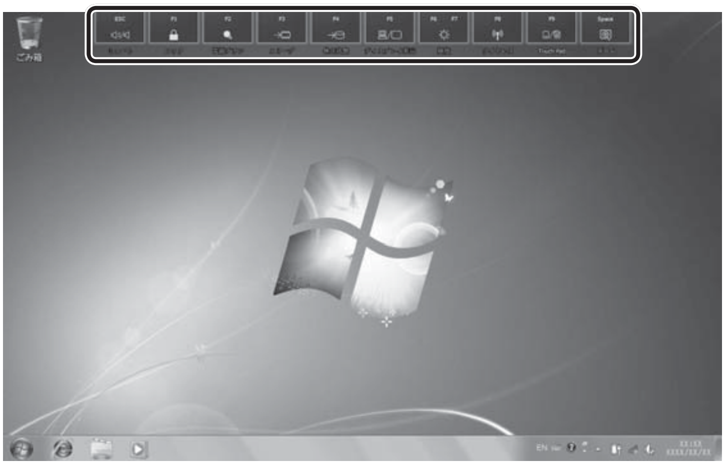
1 「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards（トウシバ フラッシュ カーズ）」を使うと、キーボードなどによる簡単な操作によって、さまざまな機能を実行できます。
デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択すると、それぞれのカードに割り当てられている機能が実行されます。

■操作方法

1 FN キーを押す

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。



（表示例）

2 設定したい機能のカードをクリックする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目にポインターを合わせる

ポインターを合わせると、アイコンが大きくなります。

4 設定したい項目のアイコンが大きい状態でクリックする

選択した項目に設定されます。

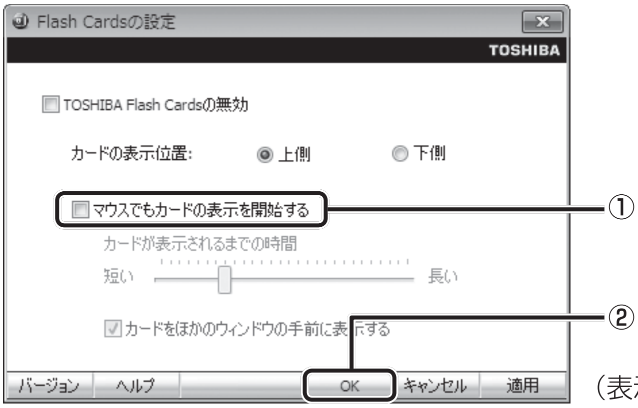
■マウス操作でカードを表示させる

ポインターをデスクトップ上部に合わせることによって、「TOSHIBA Flash Cards」が表示されるように設定することもできます。次の手順を行ってください。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cards] をクリックする

[Flash Cardsの設定] 画面が表示されます。

2 [マウスでもカードの表示を開始する] をチェックし①、[OK] ボタンをクリックする②



（表示例）

「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

「TOSHIBA Flash Cards」の詳細は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

1 [Flash Cardsの設定] 画面で、[ヘルプ] ボタンをクリックする

2 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

❏ FN キーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN＋ESC <スピーカーのミュート>	FNキーを押したまま、ESCキーを押すたびに本体のスピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のON／OFFが切り替わります。
FN＋SPACE <本体液晶ディスプレイの解像度切り替え>	FNキーを押したまま、SPACEキーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度が切り替わります。
FN＋F1 <インスタントセキュリティ機能>	コンピューターをロックします。 解除するには、ユーザー名をクリックしてください。Windowsログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力欄にWindowsログオンパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。
FN＋F2 <電源プランの設定>	FNキーを押したまま、F2キーを押すと、設定されている電源プランが表示されます。FNキーを押したまま、F2キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN＋F3 <スリープ機能の実行>	FNキーを押したまま、F3キーを押し直し、［スリープ］アイコンが大きい状態で指をはなすと、スリープ機能が実行されます。
FN＋F4 <休止状態の実行>	FNキーを押したまま、F4キーを押し直し、［休止状態］アイコンが大きい状態で指をはなすと、休止状態になります。
FN＋F5 <表示装置の切り替え>	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 3 テレビを接続する」
FN＋F6 <本体液晶ディスプレイの輝度を下げる>	FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が１段階ずつ下がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN＋F7 <本体液晶ディスプレイの輝度を上げる>	FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が１段階ずつ上がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN＋F8 <無線通信機能のON／OFF>	FNキーを押したまま、F8キーを押すと、切り替え画面が表示されます。 FNキーを押したまま、F8キーを押し直し、目的の無線通信機能（無線LAN機能*1／WiMAX機能*2／Bluetooth機能*3）のアイコンが大きい状態で指をはなすと、選択した無線通信機能のON／OFFが切り替わります。

キー	内容
FN＋F9 ＜タッチパッド ON／OFF＞	FNキーを押したまま、F9キーを押すたびにタッチパッドの有効／無効を切り替えます。 参照 詳細について 「本章 3-2 タッチパッドの使用環境を設定する」
FN＋1 ＜縮小＞	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN＋2 ＜拡大＞	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。
FN＋3 ＜音量小＞	スピーカーの音量を小さくします。
FN＋4 ＜音量大＞	スピーカーの音量を大きくします。

＊1 無線LAN機能搭載モデルのみ
＊2 WiMAX機能搭載モデルのみ
＊3 Bluetooth機能搭載モデルのみ

❏ 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャーの起動	CTRL＋SHIFT＋ESC	[Windows タスクマネージャー] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	FN＋END<PRTSC>	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT＋FN＋END<PRTSC>	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

5 ハードディスクドライブ

本製品には、ハードディスクドライブが搭載されています。
本体のハードディスクドライブは、取りはずしできません。
USB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

お願い **操作にあたって**

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- あらかじめ、「付録 1 - 3 ハードディスクドライブについて」を確認してください。

6 CDやDVDを使う
ードライブー

＊ドライブ搭載モデルのみ

本製品には、DVDスーパーマルチドライブが搭載されています。
DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R、CD-RW、CD-Rの読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 使える記録メディアを確認しよう

使用できるCD／DVDの詳細と、書き込み速度については、「付録 2 記録メディアについて」を確認してください。
使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。
＊12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファアンダーランエラー防止機能付き。

○：使用できる　×：使用できない

	読み出し＊1	書き込み回数
CD-ROM	○＊2	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊3
DVD-ROM	○＊2	×
DVD-R＊4	○＊5	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊3
DVD+R＊6	○＊5	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能＊3
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能＊3

＊1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。
＊2 読み出し速度 CD-ROM：最大24倍速、DVD-ROM：最大8倍速。
＊3 実際に書き換えできる回数は、記録メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊4 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（DVD-R Dual Layer）を含みます。DVD-R DLは、Format4での読み出し／書き込みをサポートしておりません。
＊5 記録メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。DVD-R DLのみ追記されたデータは読み出しできません。
＊6 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

メモ　書き込みできるアプリケーション

- 書き込みに使用できる、本製品に用意されているアプリケーションは次のとおりです。
  - **TOSHIBA Disc Creator**（トウシバ ディスク クリエイター）
    「TOSHIBA Disc Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。
    ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］からインストールしてください。
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

お願い　CD／DVDに書き込む前に、書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 13 - CD／DVDに書き込む前に」、「付録 1 - 13 - 書き込みを行うにあたって」を確認してください。

2 DVDの映画や映像を見る

＊ ドライブ搭載モデルのみ

Windows上でDVDを再生するには、「TOSHIBA VIDEO PLAYER（トウシバ ビデオ プレーヤー）」を使います。

再生方法

1 Windowsが起動している状態で、ドライブにDVDをセットする

［自動再生］画面が表示されます。

2 ［DVDムービーの再生-TOSHIBA VIDEO PLAYER使用］をクリックする

［DVDムービーに対しては常に次の動作を行う］にチェックがついている状態で、手順 2 の操作をすると、次回以降はDVDをセットすると自動的に「TOSHIBA VIDEO PLAYER」が起動します。

「TOSHIBA VIDEO PLAYER」は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［マルチメディア］→［TOSHIBA VIDEO PLAYER］をクリックして起動することもできます。

ヘルプの起動方法

使いかたは、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」のヘルプを確認してください。

①映像ウィンドウ右上の［情報］ボタン（ ? ）をクリックする

②［ヘルプ］ボタンまたは［Read me］ボタンをクリックする

［ヘルプ］ボタンで表示されるユーザーマニュアルと、［Read me］ボタンで表示される説明の、両方を参照してください。

用語について

本節では、「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-Videoフォーマットまたは DVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

お願い　DVDの再生にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 14 DVDの再生にあたって」を確認してください。

メモ

- Windows上でDVDを再生する場合、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」を使用してください。
「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できないことがあります。

3 CD／DVDを使うとき（セット）

CD／DVDは、パソコン本体に搭載されているドライブにセットして使用します。

お願い　CD／DVDの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 4 CDやDVDについて」、「付録 2 - 1 使えるCDを確認しよう」、「付録 2 - 2 使えるDVDを確認しよう」を確認してください。

メモ　セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。
- CD／DVDの特性やCD／DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
- CD／DVDの種類によっては、取り出すときWindowsが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。
よく確認してからCD／DVDをセットしてください。
このWindowsの機能を無効にするには、次のように操作してください。
① ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする
② ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
ドライブのプロパティ画面が表示されます。
③ ［書き込み］タブで［共通の設定］ボタンをクリックする
④ ［共通の設定］画面で［シングル セッション ディスクを取り出すとき］と［マルチ セッション ディスクを取り出すとき］のチェックをはずし、［OK］ボタンをクリックする

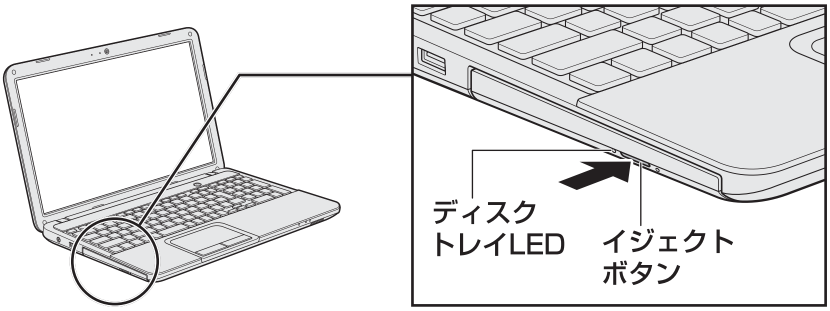
ドライブに関する表示

パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLEDが点灯します。

1 **パソコン本体の電源を入れる**

Windowsが起動します。

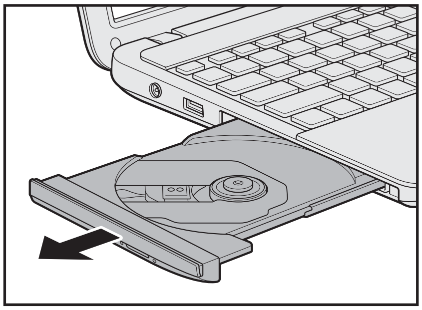
2 **イジェクトボタンを押す**



イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

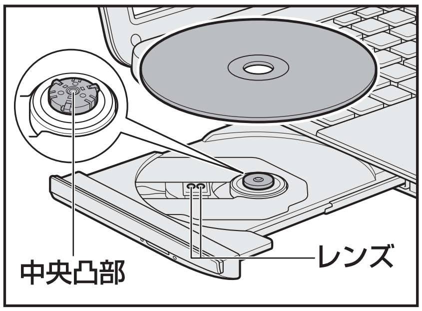
＊搭載されているドライブによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 **ディスクトレイを引き出す**



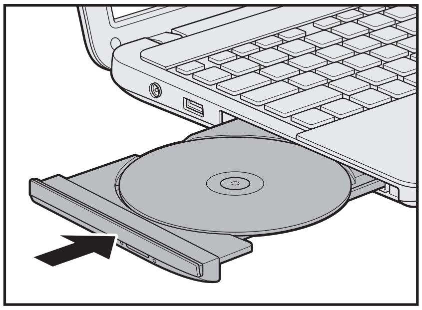
CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 **文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする**



「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



4 CD／DVDを使い終わったとき（取り出し）

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

電源が入っていない場合は電源を入れてください。

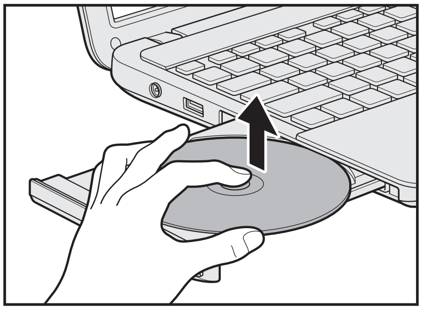
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

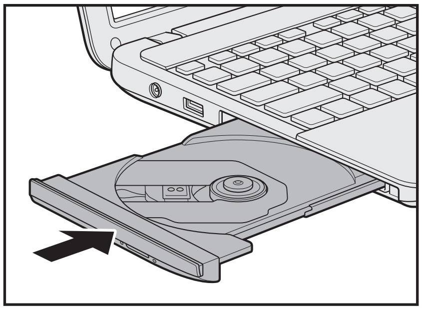
CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD／DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す



CD／DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



CD／DVDが出てこない場合

⚠注 意

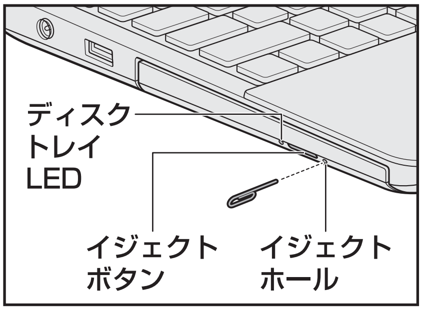
- クリップなどを使う場合は、取り扱いに十分注意する
  先端のとがった部分でけがをするおそれがあります。

電源を切っているとき、または休止状態のときは、取り出しの操作をしてもCD／DVDは出てきません。電源を入れてから、CD／DVDを取り出してください。
次の場合は、電源が入っていても、すぐにCD／DVDは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- スリープ状態のとき

上記以外でCD／DVDが出てこない場合は、次のように操作してください。

- **Windows動作中の場合**
  CD／DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。
- **パソコン本体の電源が入らない場合**
  電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。



＊搭載されているドライブによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイLEDの位置は異なります。

5 DVD-RAMをフォーマットする

新品のDVD-RAMは、使用する目的に合わせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。
フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。

お願い DVD-RAMのフォーマットについて

- あらかじめ、「付録 1 - 4 - DVD-RAMのフォーマットについて」を確認してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後の記録メディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.50」「UDF2.01」「UDF2.00」「UDF1.50」「UDF1.02」「FAT32」です。

DVD-RAMのセクターの一部に不具合が生じた場合などに、通常のフォーマットとは違う「物理フォーマット」を行う場合があります。通常、購入したばかりのDVD-RAMに対しては、物理フォーマットを行う必要はありません。
物理フォーマットに対して、通常のフォーマットを「論理フォーマット」と呼びます。
なお、物理フォーマットを行ったあとには、論理フォーマットが必要となります。

1 論理フォーマット

通常のフォーマット（論理フォーマット）は、Windows上で実行できます。
フォーマット方法については［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。

2 物理フォーマット

物理フォーマットを行うには、非常に時間がかかります。
「TOSHIBA Disc Creator」をインストールしないと本機能は使用できません。
あらかじめインストールしてください。

参照 「TOSHIBA Disc Creator」について「本節 1 - 書き込みできるアプリケーション」

1 物理フォーマットするDVD-RAMをセットする

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［マルチメディア］→［DVD-RAMユーティリティ］をクリックする

［東芝DVD-RAMユーティリティ］画面が表示されます。

3 ［開始］ボタンをクリックする

以降、画面に表示されるメッセージに従ってください。
物理フォーマットをしたあとは、論理フォーマットが必要です。

7 画面を調整する
−ディスプレイ−

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを搭載しています。
テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1〜8」の8段階で設定ができます。

❑ 輝度の調整方法

FN＋F6：FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで輝度の状態を確認できます。

FN＋F7：FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで輝度の状態を確認できます。

2 着席／離席によって画面を自動的にON／OFFする

＊TOSHIBA Active Display Off搭載モデルのみ

「TOSHIBA Active Display Off」は、パソコンの前に人がいるかどうかを本体のWebカメラで検出して判断し、本体液晶ディスプレイの画面を自動的にON／OFFする機能です。
画面をOFFすることにより、節電の効果があります（モデルによっては、効果が少ない場合があります）。
また、インターネットやメールなどを閲覧中に画面が自動的に消えることがあります。これは、一定時間マウスやキーボードなどの操作を行わなかったため、「電源オプション」の機能が働いたためですが、本機能を有効にしておくと、パソコンの前に人がいる間は画面が消えることがなくなります。

お願い 「TOSHIBA Active Display Off」を使用するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 5 「TOSHIBA Active Display Off」について」を確認してください。

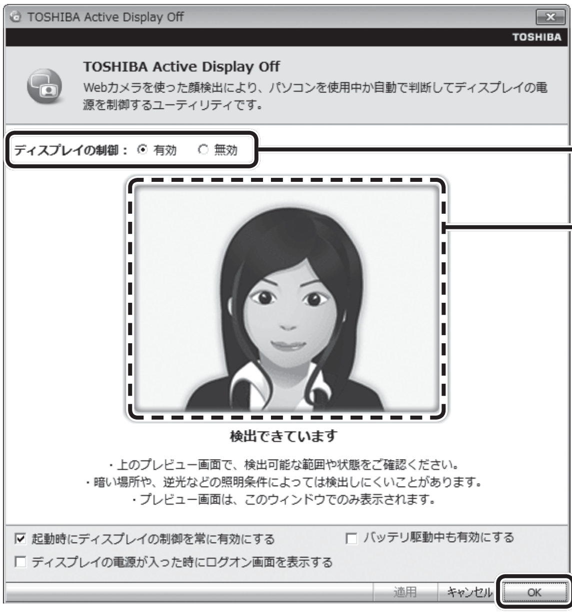
本機能は、購入時の状態では無効になっています。本機能を使用する場合は、「TOSHIBA Active Display Off」を起動して有効に設定してください。

1 起動して有効にする

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Active Display Off］をクリックする**

初めて起動したときは［使用上の注意］画面が表示されるので、［同意する］ボタンをクリックしてください。
［TOSHIBA Active Display Off］画面が表示されます。

2 **［有効］がチェックされていることを確認し①、［OK］ボタンをクリックする②**



①

Webカメラの撮影範囲
この範囲に人の顔を検出すると、本機能が動作します。
Webカメラの位置は「本章 10 Webカメラを使う」を参照してください。

②

本機能を有効にすると、通知領域に［TOSHIBA Active Display Off］アイコン（ ）が常駐します。

2 設定を変更する

本機能を無効に切り替えたり、詳細設定を行う場合は、次の方法で行います。

1 通知領域の［TOSHIBA Active Display Off］アイコン（ ）を右クリックして表示されるメニューから、［設定］をクリックする

［TOSHIBA Active Display Off］画面が表示されます。

2 設定を変更して［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 本機能は、購入時の状態では、パソコンの前から人がいなくなって、電源（電源コードとACアダプター）接続時で約2分後（バッテリー駆動時は約1分後）に画面OFFとなります。画面が消えるまでの時間は、「電源オプション」の電源プランの各項目で設定している時間のうち、最少時間の約半分となります（ただし、約50秒～10分の範囲内）。
- パソコン本体のWebカメラのLEDは、本機能が有効の場合、人を検出して画面ONの間は一定間隔で点滅し、人を検出できずに画面OFFの間は点灯します。

8 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

1 FN＋3またはFN＋4キーで調整する

1 音量を小さくしたいときはFN＋3キー、大きくしたいときはFN＋4キーを押す

FNキーを押したまま3キーを押すたびに音量が小さくなり、FNキーを押したまま4キーを押すたびに音量が大きくなります。

2 音量ミキサーから調整する

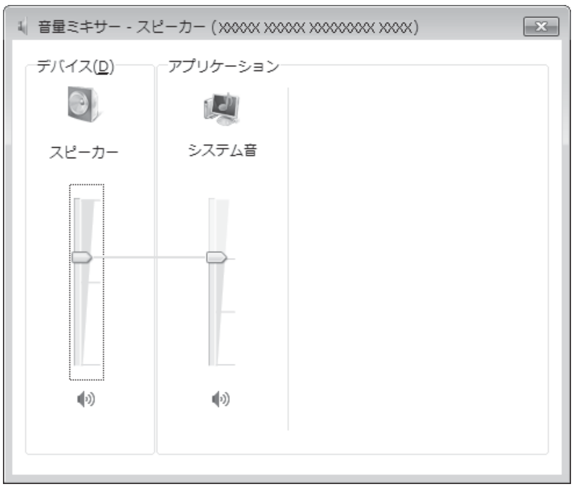
1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ システム音量の調整］をクリックする

［音量ミキサー］画面が表示されます。

3 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

［ミュート］ボタン（ ）をクリックすると消音（ミュート）になります。



（表示例）

❏ 音楽／音声を再生するとき

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（Windowsの終了、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

メモ

- インテル® ハイ・デフィニション・オーディオ準拠。
- キャプチャソフトなどを使用して、パソコンで再生中の音声を録音することはできません。

2 TOSHIBA Audio Enhancerについて

本製品は、音響補正技術「TOSHIBA Audio Enhancer」を搭載しています。
「TOSHIBA Audio Enhancer」は、音楽・映画などのコンテンツの再生において、小型薄型スピーカーで出にくくなった低域や高域の成分を最大限に補正することで、より原音に近い音質で楽しめます。
また、「Auto Volume Adjustment」により、コンテンツごとに異なる音量を自動的に調整し、常に快適な音量で視聴できます。

お願い TOSHIBA Audio Enhancerの使用にあたって

- TOSHIBA Audio Enhancerは、パソコン本体のスピーカーに効果があります。
  その他のスピーカーやヘッドホンはサポートしておりません。
- 元の音源がひずんでいる場合など、コンテンツによっては、ノイズが発生することがあります。
  また、複数のアプリケーションで複数コンテンツを同時に再生した場合もノイズが発生することがあります。
  ノイズが発生する場合は、［TOSHIBA Audio Enhancerを有効にする］のチェックをはずして、TOSHIBA Audio Enhancerを無効にしてください。

1 起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする**

2 **［ハードウェアとサウンド］→［サウンド］をクリックする**

［サウンド］画面が表示されます。

3 **［再生］タブで、［スピーカー］を選択し、［プロパティ］ボタンをクリックする**

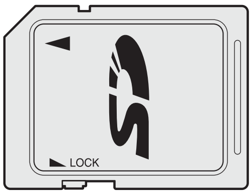
［スピーカーのプロパティ］画面が表示されます。

4 **［TOSHIBA Audio Enhancer］タブをクリックする**

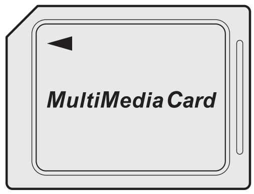
9 いろいろなメディアカードを使う
－ブリッジメディアスロット－

本製品では次のメディアカードをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SDメモリカード*1
  （以降、SDHCメモリカード*1、SDXCメモリカード*1を含みます。）

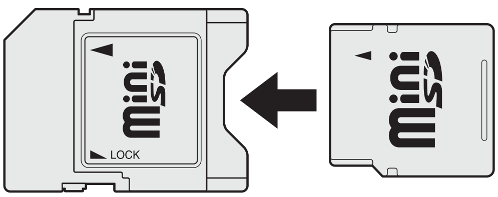


- マルチメディアカード

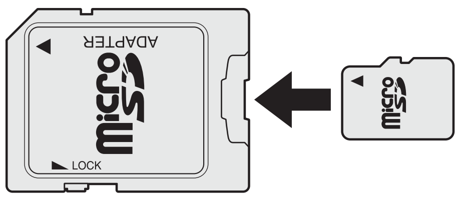


次のメディアカードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のブリッジメディアスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモリカード*1
  （以降、miniSDHCメモリカード*1を含みます。）
  SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを使用します。



- microSDメモリカード*1
  （以降、microSDHCメモリカード*1を含みます。）
  SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを使用します。



＊1 著作権保護技術CPRMに対応しています。

アダプターの装着や使用方法は、『メディアカードに付属の説明書』を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

すべてのメディアの動作を保証するものではありません。
高速データ転送には対応しておりません。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 メディアカードを使う前に

お願い メディアカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 3 メディアカードを使うにあたって」を確認してください。

新品のメディアカードは、メディアカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メディアカードを使えるようにすることです。
フォーマットされていないものを購入した場合や再フォーマットをする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

2 メディアカードのセットと取り出し

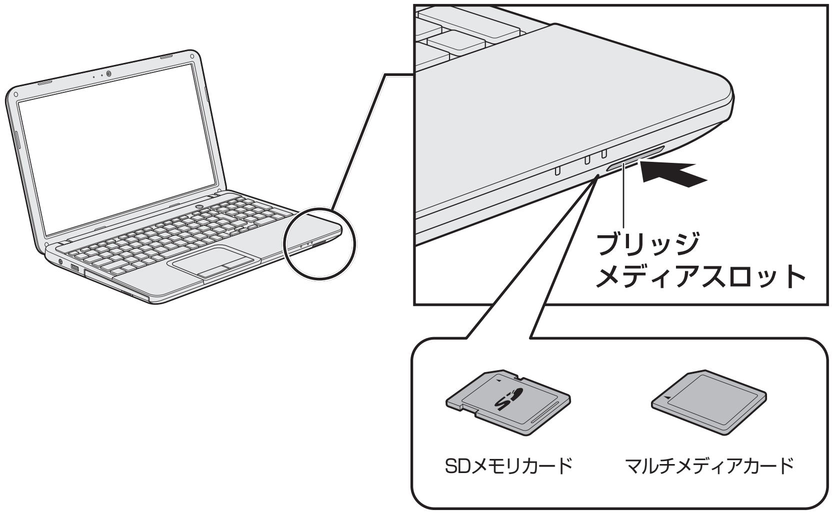
お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 3 - 1 メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。
メディアカードは、一部がブリッジメディアスロットからはみ出した状態になります。無理に押し込まないでください。



お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプターが必要です。
アダプターを使用しないで直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたメディアカードの内容を見る

著作権保護*1を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。
著作権保護*1されたファイルについては見ることができない場合があります。

＊1 SDメモリカードの場合

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする

［コンピューター］画面が表示されます。

2 メディアカードのアイコンをダブルクリックする

以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

SDメモリカード　：リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD Card、SD

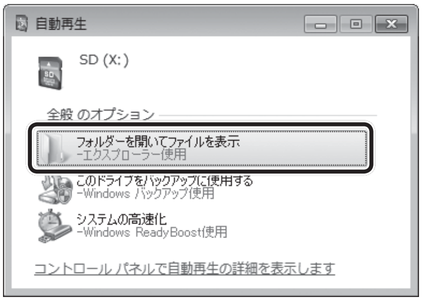
マルチメディアカード　：リムーバブルディスク、MMC記憶域デバイス、MultiMediaCard、MMC Card、MMC

（表示例）

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、ブリッジメディアスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択してください。



（表示例）

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ または ）をクリックする

＊通知領域にアイコン（ または ）が表示されていない場合は、 をクリックしてください。



（表示例）

②表示されたメニューから取り出すメディアカードの項目をクリックする
③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

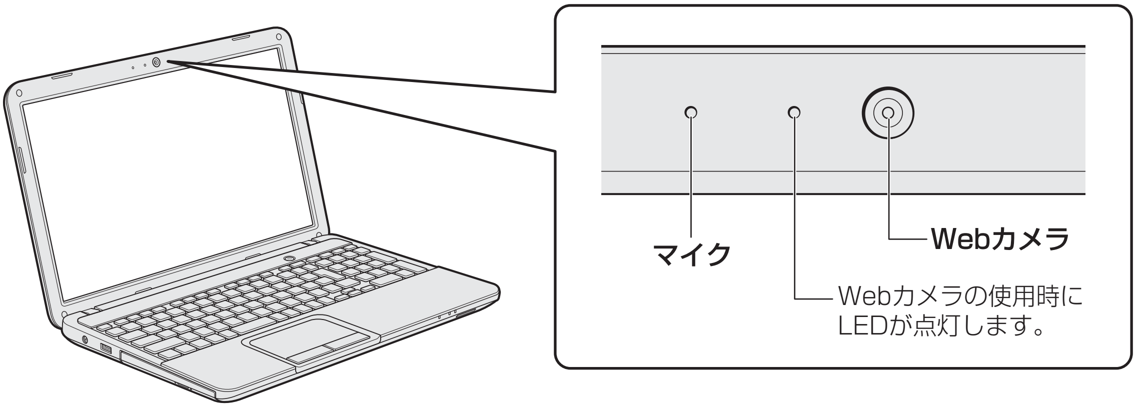
2 メディアカードを取り出す

ブリッジメディアスロットから出ている部分を持ち、静かに引き抜いてください。

10 Webカメラを使う

＊Webカメラ搭載モデルのみ

本製品には、「Webカメラ」が搭載されています。
専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。



お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、「付録 1 - 6 Webカメラについて」を確認してください。

1 Webカメラのアプリケーションについて

本製品には、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（  ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［マルチメディア］→［ウェブカメラアプリケーション］をクリックする

「東芝ウェブカメラアプリケーション」が起動します。

2 写真や動画を撮影する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の画面にポインターを重ねると表示される各ボタンの概要は、次のようになっています。

- **[写真撮影]ボタン( )**
  画面に映っている画像を、写真として撮影します。
- **[ビデオ録画]ボタン( )**
  画面に映っている画像を、映像として録画します。
- **[アルバム]ボタン( )**
  撮影、録画したファイルの一覧を表示します。
- **[設定]ボタン( )**
  撮影した画像や映像の保存先や、保存形式、映像品質を設定したり、画質調整などができます。

詳しくは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

1 「東芝ウェブカメラアプリケーション」を起動後、[ヘルプ]ボタン( )をクリックする

2 顔照合機能

Webカメラを使うアプリケーションに、「TOSHIBA Face Recognition（トウシバ フェイス リコグニション）」という顔照合機能があります。
顔照合とは、顔をWebカメラに映して登録し、登録した顔でWindowsのログオン時などに照合させることができる機能です。顔照合機能を使用することによってパスワードなどの入力を省略し、簡単にログオンすることが可能になります。
なお、本機能はセキュリティを目的としたWindowsログオンパスワードの置き換えには適しません。

お願い 顔照合機能について

- あらかじめ、「付録 1 - 7 顔照合機能について」を確認してください。

1 インストール方法

「TOSHIBA Face Recognition」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

1. ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする
2. ［セットアップ画面へ］をクリックする
3. ［ユーティリティ］タブをクリックする
4. 画面左側の［TOSHIBA Face Recognition］をクリックし、［「TOSHIBA Face Recognition」のセットアップ］をクリックする
5. 画面の指示に従ってインストールする
   「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 起動方法

1. ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Face Recognition］をクリックする

操作方法の詳細は、「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを参照してください。
「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを起動するには、次の手順を実行してください。

3 ヘルプの起動方法

1. 「TOSHIBA Face Recognition」の管理画面で、［ヘルプ］ボタンをクリックする

3章

ネットワークの世界へ

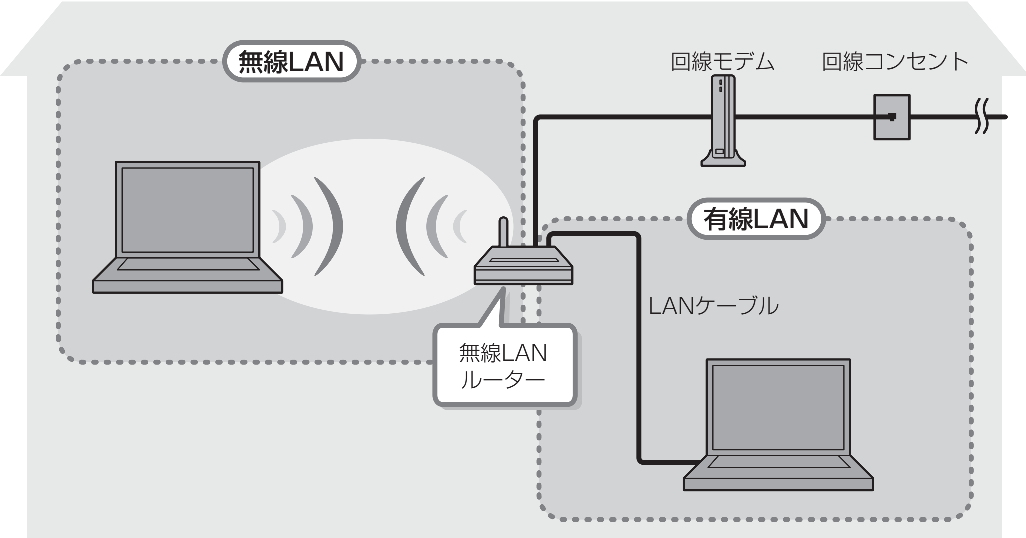
本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、複数のパソコンがあるときは、LAN（ラン）（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。



（接続例）

■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 2 有線LANで接続する」を参照してください。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。
無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。
ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定方法の詳細は、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、各機器に付属の説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 有線LANで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN機能が搭載されています。
本製品のLANコネクタに光回線終端装置、ADSLモデムやブロードバンドルーターなどをLANケーブルで接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）*1、Fast Ethernet（100BASE-TX）、Ethernet（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

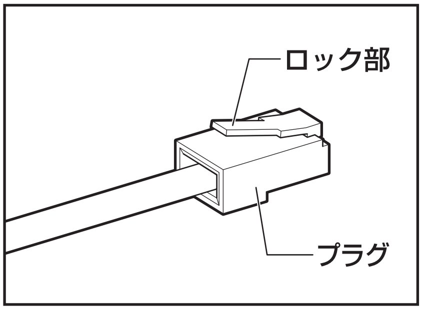
＊1 Gigabit Ethernetに対応しているモデルのみ

1 LANケーブルを接続する

お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 有線LANについて」を確認してください。

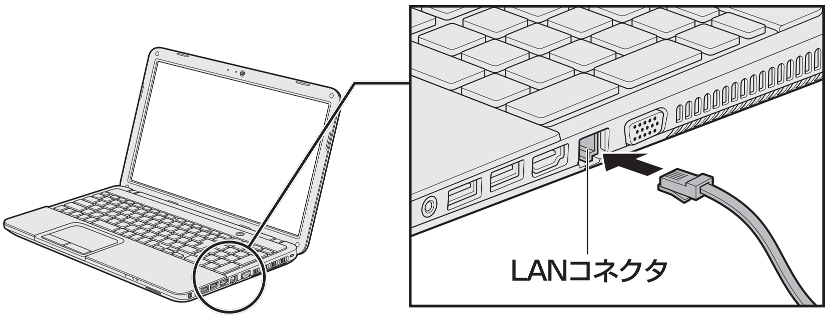
LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を下にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器により、以降の設定方法は異なります。

参照 光回線終端装置、ADSLモデムの設定について
『プロバイダーなどから送られてくる資料』
ブロードバンドルーターの設定について
『ブロードバンドルーターに付属の説明書』

3 ワイヤレス（無線）LANを使う

＊無線LAN機能搭載モデルのみ

1 無線LANモジュールの確認

使用しているパソコンに搭載された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使って確認できます。

参照 「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

2 表示されたメニューでアダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- **「Intel(R) Centrino(R) Advanced-N 6250 AGN」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Intel 6250 a/b/g/nモジュール」と呼びます。
  ＊このモジュールは、WiMAXに対応しています。
- **「Intel(R) Centrino(R) Wireless-N 6150」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Intel 6150 b/g/nモジュール」と呼びます。
  ＊このモジュールは、WiMAXに対応しています。
- **「Realtek RTL8723AE Wireless LAN 802.11n PCI-E NIC」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「RTL8723AE b/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Realtek RTL8188CE Wireless LAN 802.11n PCI-E NIC」の場合**
  IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「RTL8188CE b/g/nモジュール」と呼びます。
- **「Atheros AR946x Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Atheros 946x a/b/g/nモジュール」と呼びます。

- **「Atheros AR938x Wireless Network Adapter」の場合**
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Atheros 938x a/b/g/nモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、『取扱説明書』を確認してください。

メモ

- Wi-Fi準拠、WPA/WPA2対応、128bit WEP対応、256bit AES対応、TKIP対応。

2 無線LANを使ってみよう

⚠警告

- **心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  - ・無線通信機能は、FN＋F8キーを押してOFFにすることができます。FN＋F8キーを押して無線通信機能をOFFに設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  - ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  - ・電源を切った状態、または高速スタートモード＊1で待機中（高速スタートモードで電源を切ったとき）でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  - ・ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

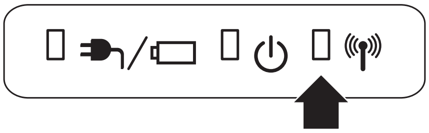
＊1 東芝高速スタート搭載モデルのみ

お願い

- あらかじめ、「付録 1 - 9 無線LANについて」を確認してください。
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
  無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 FN＋F8キーを押す

FNキーを押したままF8キーを押すたびに、大きく表示されるアイコンが切り替わります。無線LANのアイコン（Wi-Fiのアイコン）が大きく表示された状態でFNキーをはなすと、無線LAN機能のON／OFFが切り替わります。
ONにすると、ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。



以降の無線の設定方法には、次の2種類があります。

- 「ConfigFree」を使う
- Windows標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」を参照してください。
また、Windows標準機能を使って設定する場合は、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windows ヘルプとサポート』を参照してください。

役立つ操作集

ConfigFree

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳しくは、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピューターの管理者のユーザーアカウントで使用してください。

- **ファーストユーザーズガイドの起動方法**
  ① 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）を右クリックして表示されるメニューから、［ヘルプ］をクリックする
  ＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
- **「ConfigFree」の起動方法**
  「ConfigFree」は、Windows を起動すると自動的に起動し、通知領域に［ConfigFree］アイコン（ ）が表示されています。
  ＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
  「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree］→［ConfigFree トレイ］をクリックする

メモ Windowsのログオン画面で、無線LANの状態を確認する(「東芝無線LANインジケーター」)

- 無線LANの設定を行い、無線LANネットワークに接続可能な状態の場合、Windowsのログオン画面に［東芝無線LANインジケーター］画面が表示されます。この画面で、現在の無線LANの状態を確認することができます。
  また、無線LANネットワークに接続可能な状態ではない場合は、Windowsのログオン画面に「東芝無線LANインジケーター」のアイコン( )のみが表示されます。このアイコンをクリックすると、[東芝無線LANインジケーター］画面を表示することができます。
  なお、「東芝無線LANインジケーター」は、表示方法を変更することができます。[スタート］ボタン( )→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［無線LANインジケーター - 設定］をクリックして表示される、[東芝無線LANインジケーター - 設定］画面で設定を変更してください。
- 「東芝無線LANインジケーター」は、購入時の状態ではインストールされていません。
  次の手順でインストールしてください。
  ①［スタート］ボタン( )→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする
  ②［セットアップ画面へ］をクリックする
  ③ 画面のメッセージに従ってインストールする
  ［ユーティリティ］タブに［TOSHIBA Wireless LAN Indicator］の項目が用意されています。

3 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線LANアクセスポイントとパソコンの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。
本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。
次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ インターネットへの接続］をクリック→［ワイヤレス］をクリックする

現在のワイヤレスネットワークへの接続状態が表示されます。

3 画面右下の［ワイヤレスネットワーク接続］画面で、接続したいアクセスポイント名をクリックする

4 ［自動的に接続する］をチェックし、［接続］ボタンをクリックする

5 ［ネットワークに接続］画面で、必要なネットワークセキュリティ情報を入力し、［OK］ボタンをクリックする

選択する項目、データ暗号化の方式、セキュリティ キーなどの詳細は、『無線LANアクセスポイントに付属の説明書』を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線LANアクセスポイントに接続できない場合があります。

2 Bluetooth機能を使う

＊ Bluetooth機能搭載モデルのみ

Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器どうしで無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。
詳しくは、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』を参照してください。

参照 起動方法「本節 1 - Bluetoothユーティリティユーザーズガイドの起動方法」

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 10 Bluetoothについて」を確認してください。

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。
  本製品に搭載されているBluetooth機能のバージョンについては、『取扱説明書』を確認してください。
- 2.4GHz帯の無線LANまたはWiMAXが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

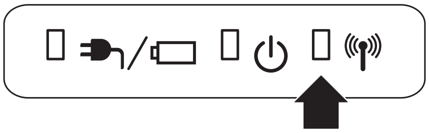
⚠警告

- **心臓ペースメーカーを装着しているかたは、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線通信機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。ほかの機器に影響を与えることがあります。
  ・無線通信機能は、FN＋F8キーを押してOFFにすることができます。FN＋F8キーを押して無線通信機能をOFFに設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に復帰することがあるため、飛行を妨げたり、ほかのシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  ・電源を切った状態、または高速スタートモード*1で待機中（高速スタートモードで電源を切ったとき）でも、パソコンが自動的に起動するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。
  ・ディスプレイを開くことで自動的に電源が入るパネルオープンパワーオン機能を設定している場合は、あらかじめ設定を無効（解除）にしてください。

＊1 東芝高速スタート搭載モデルのみ

1 **FN＋F8キーを押す**

FNキーを押したままF8キーを押すたびに、大きく表示されるアイコンが切り替わります。Bluetoothのアイコン（ ）が大きく表示された状態でFNキーをはなすと、Bluetooth機能のON／OFFが切り替わります。
ONにすると、ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。



初めて起動したときは、Bluetooth用ドライバーのインストールが始まります。インストールが終了するまでお待ちください。
「Bluetooth Manager」が起動し、周辺のBluetooth対応機器を検索する［自動登録］画面が表示されます。すぐにBluetooth対応機器を登録する必要がない場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
無線LAN（Wireless LAN）と同時に使用する際の［注意］画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じてください。
通知領域に［Bluetooth Manager］アイコン（ ）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。
［Bluetooth Manager］アイコン（ ）はサービスの状態によって表示が異なります。詳しくは、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』を確認してください。
Bluetooth機能が有効になっていない場合には、［Bluetooth Manager］アイコン（ ）を右クリックして表示されたメニューから、［Bluetoothオン］を選択してください。

＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

初めてBluetoothを使うときには、「Bluetoothユーティリティ」の設定が必要になります。設定方法や通信する方法については、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Bluetooth］→［Bluetoothユーザーズガイド］をクリックする**

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を追加することができます。
周辺機器は、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぎます。
本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 5 各インターフェースの仕様」

お願い 周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 11 周辺機器について」を確認してください。

次の周辺機器が使用できます。

- USB対応機器
- テレビ
- 外部ディスプレイ
- マイクロホン／ヘッドホン

参照「本章 2」以降

2 USB対応機器を使う

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ　　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

コネクタ内部が青色のUSBコネクタは、USB3.0規格に対応しています。
使用しているUSB対応機器がUSB3.0規格に対応しているかどうかは、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。
このコネクタには、他のUSBコネクタと同様、USB2.0対応機器、USB1.1対応機器も取り付けることができます。
USB周辺機器すべての動作を保証するものではありません。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 11 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 取り付け

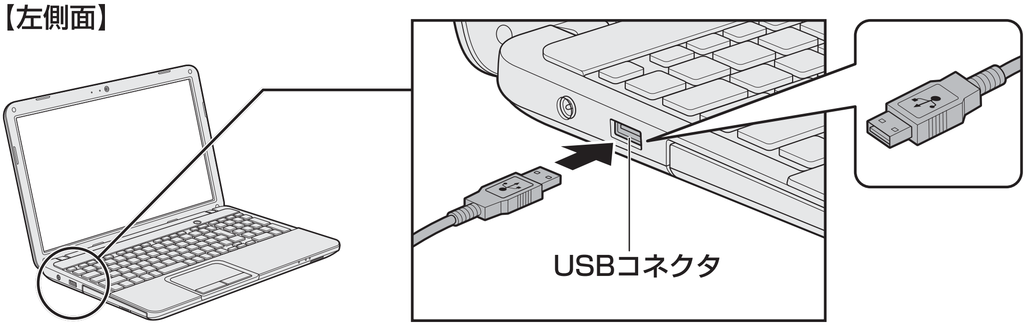
1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

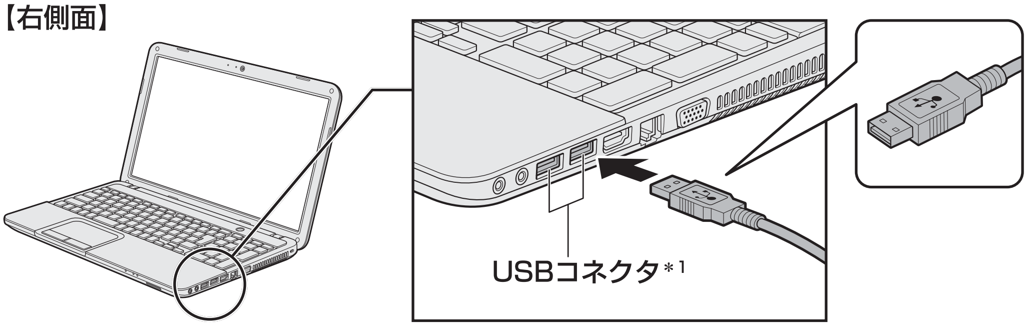
2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



【右側面】



＊1 コネクタ内部が青色のUSBコネクタは、USB3.0規格に対応しています。

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ または ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順 **2** に進んでください。



（表示例）

②表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をクリックする

③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

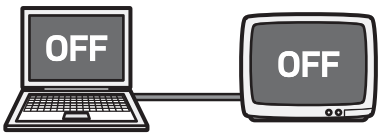
3 テレビを接続する

本製品とテレビをＨＤＭＩ（エイチディーエムアイ）ケーブルで接続すると、テレビ画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。
HDMI出力端子は、音声もテレビに出力することができます。

「TOSHIBA VIDEO PLAYER」でのDVD再生など、パソコンで視聴／再生している映像などもテレビに表示させることができます。

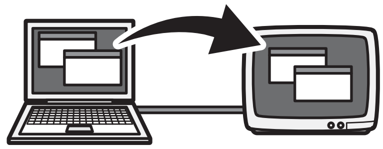
パソコン本体と、テレビを接続する

参照 「本節 1 パソコンに接続する」



パソコンの画面をテレビに表示する設定をする

参照 「本節 2 表示を切り替える」



お願い　テレビ接続の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 11 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

■接続の前に

テレビを接続するときは、『テレビに付属の説明書』もあわせて確認してください。
HDMI端子があるテレビを接続できます。

メモ

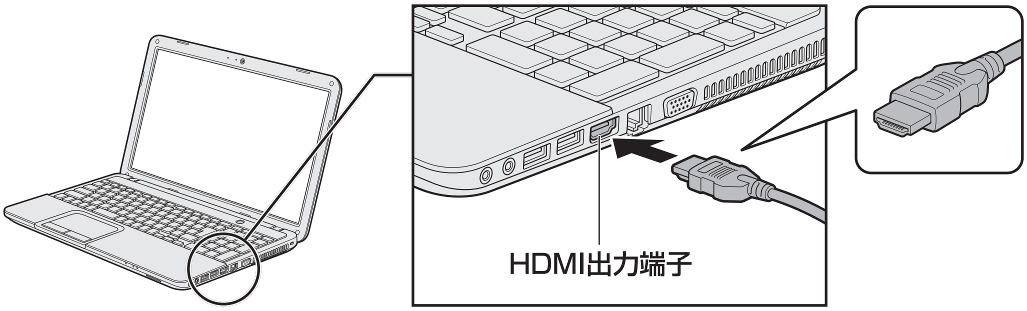
- 接続するHDMIケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMI対応機器すべての動作を保証するものではありません。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（ HDMI ）の表示があるケーブルをご使用ください。
- 使用可能なテレビは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあったテレビを接続してください。
- テレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。
- 著作権保護された映像などをテレビに表示するためには、HDCPに対応したテレビを接続してください。
- RGB端子を備えたテレビへは、外部ディスプレイのようにRGBケーブルを使って表示することもできます。詳しくは、『テレビに付属の説明書』と、「本章 4 外部ディスプレイを接続する」を参照してください。

1 パソコンに接続する

1 HDMIケーブルのプラグをテレビのHDMI入力端子に差し込む

2 テレビの電源を入れる

3 HDMIケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のHDMI出力端子に差し込む



メモ

- HDMI接続で、テレビに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。

❑ 音声の出力をパソコン本体のスピーカーからテレビに切り替える

HDMIケーブルで接続したテレビから音声が出ない場合は、次の設定を行ってください。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [コントロールパネル] をクリックする

2 [ハードウェアとサウンド] → [サウンド] をクリックする

[サウンド] 画面が表示されます。

3 [再生] タブで [インテル（R）ディスプレイ用オーディオ] と説明がある項目を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックする

4 [OK] ボタンをクリックする

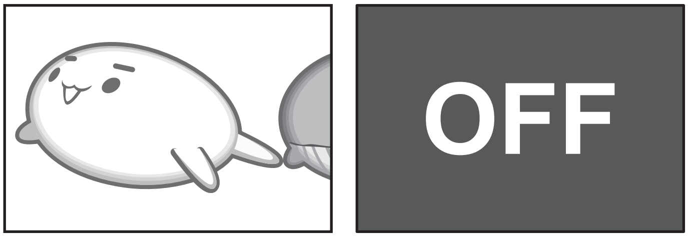
この設定を行うと、パソコン本体から音声が出力されなくなります。テレビを取りはずし、パソコン本体からの音声出力に戻す場合は、手順 **3** で [スピーカー] を選択し、[既定値に設定] ボタンをクリックしてください。

2 表示を切り替える

テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

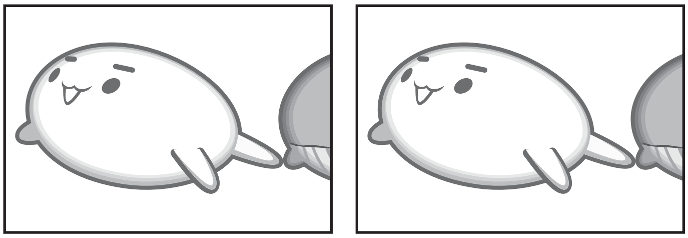
■本体液晶ディスプレイだけに表示／テレビだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

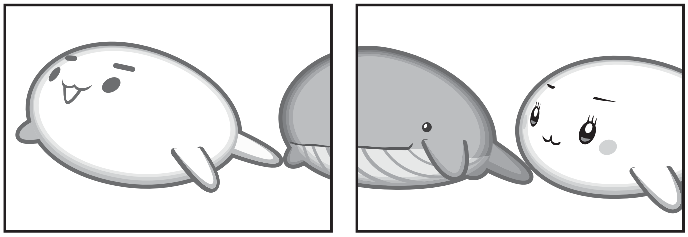


■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

- **クローン表示**
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。



- **拡張表示***
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。
  ＊拡張表示は、「Extended Desktop」と表示されることがあります。



テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

メモ

- テレビと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
  本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- テレビに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、テレビ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。起動中は、表示装置を切り替えることができません。
  クローン表示、拡張表示での再生はサポートしていません。
- 著作権保護された映像を、HDMI出力端子に接続したテレビに表示したい場合は、テレビだけに表示するよう設定してください。
- 「電源オプション」で省電力機能を設定してテレビの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スリープに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
  表示が復帰するまで10秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

1 方法1 − デスクトップ画面で設定する

1 デスクトップ画面上のウィンドウやアイコンなどが表示されていない場所にポインターを移動し、右クリックする

メニューが表示されます。

2 ［グラフィック プロパティ］をクリックする

［次のアプリケーションモードのいずれかを選択してください］画面が表示された場合は、［基本モード］を選択し、［OK］ボタンをクリックしてください。

3 ［ディスプレイ］→［マルチディスプレイ］で表示装置を設定する



（表示例）

■本体液晶ディスプレイ、またはテレビだけに表示

① ［動作モード］で［シングル ディスプレイ］を選択する

② ［メインディスプレイ］で次の項目を選択する

・本体液晶ディスプレイに表示する場合：［内蔵ディスプレイ］

・HDMI出力端子に接続している表示装置に表示する場合：［デジタル テレビ］

・RGBコネクタに接続している表示装置に表示する場合：［PCモニター］

③ ［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

■本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示

① ［動作モード］で次のいずれかを選択する

・［クローン ディスプレイ］：クローン表示

・［拡張デスクトップ］：拡張表示

② ［メインディスプレイ］と［2番目のディスプレイ］を設定する

［内蔵ディスプレイ］は「本体液晶ディスプレイ」、［デジタル テレビ］は「HDMI出力端子に接続している表示装置」、［PCモニター］は「RGBコネクタに接続している表示装置」を示します。

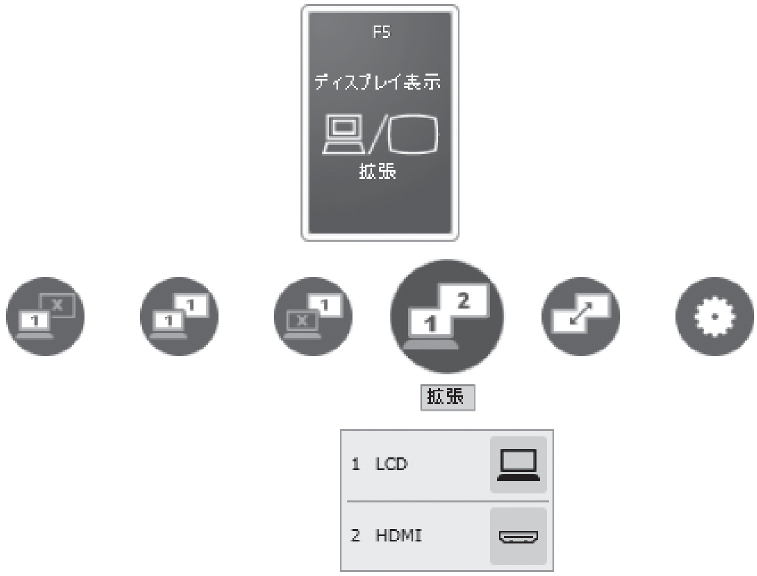
③ ［適用］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。確認して［OK］ボタンをクリックしてください。

2 方法2 － FN ＋ F5 キーを使う

表示装置を選択する

FN キーを押したまま F5 キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。



（表示例）

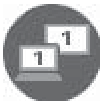
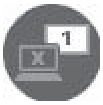
＊ アイコンの一覧です。実際は接続している表示装置に応じて切り替え可能なパターンのみ表示されます。

上から、現在の表示装置が表示されたカード、切り替え可能なパターン、現在設定されている表示方法の詳細を示しています。

FN キーを押したまま、 F5 キーを押すたびに、大きなアイコンが移動します。選択する項目が大きなアイコンに変わったところで、 FN キーをはなすと表示装置が切り替わります。

上記画面の例では、メインディスプレイに本体液晶ディスプレイを使用し、HDMI接続の外部ディスプレイを接続して拡張表示しています。

カードの下に表示されるアイコンについて説明します。

アイコン	表示	概要
コンピュータのみ		本体液晶ディスプレイだけに表示します。
複製		本体液晶ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイにクローン表示します。*1
外部のみ		テレビまたは外部ディスプレイだけに表示します（本体液晶ディスプレイには何も表示されません）。*1
拡張		本体液晶ディスプレイと、テレビまたは外部ディスプレイに拡張表示します。*1
任意のプロファイル名		表示設定をプロファイルとして登録している場合、登録プロファイルが表示されます。アイコン右下に ★ が表示されます。
ディスプレイの入れ替え		拡張表示時にメインディスプレイを切り替えます。
設定		プロファイルの登録／変更／削除を行います。
保存		現在の表示設定をプロファイルに登録します。このアイコンは、［設定］アイコンの画面で［保存オプションを表示する］にチェックをつけると表示されます。

＊1 テレビまたは外部ディスプレイを2台以上接続している場合、アイコンの右下に が表示されます。表示装置を指定できます。

■「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

「TOSHIBA Flash Cards」の詳細は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cards］をクリックする**

［Flash Cardsの設定］画面が表示されます。

2 **［Flash Cardsの設定］画面で、［ヘルプ］ボタンをクリックする**

❏ 表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法

現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN＋F5キーを３秒以上押し続けてください。
表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、FN＋F5キーを３秒以上押し続けてください。

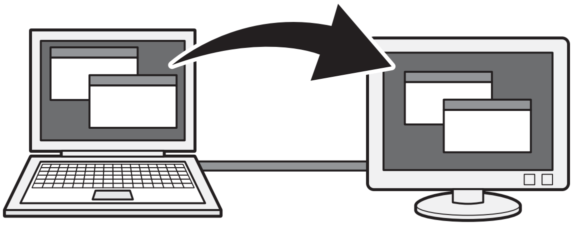
3 パソコンから取りはずす

1 HDMI出力端子からケーブルを抜く

4　外部ディスプレイを接続する

本製品の次のコネクタと外部ディスプレイをケーブルで接続すると、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

- HDMI（エイチディーエムアイ）出力端子
- RGB（アールジービー）コネクタ



お願い　**外部ディスプレイ接続の操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 11 - テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

メモ

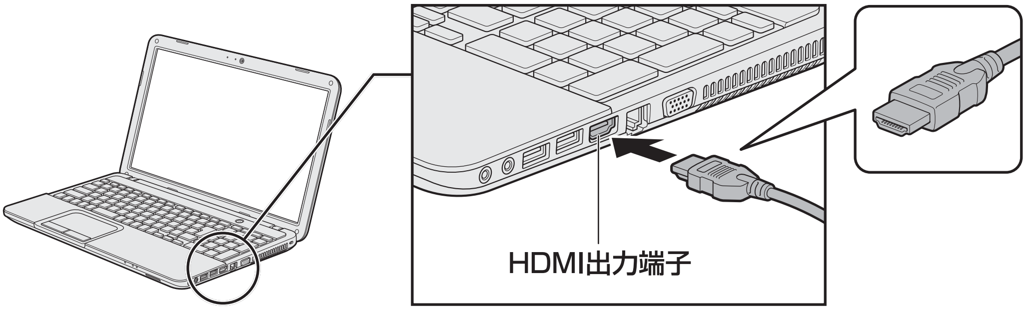
- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。
- HDMIケーブルは、HDMIロゴ（ ）の表示があるケーブルをご使用ください。
- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。
- 著作権保護された映像などを外部ディスプレイに表示するためには、HDCPに対応した外部ディスプレイを接続してください。

1 パソコンに接続する

1 パソコンに接続する

HDMI出力端子に接続する

1. HDMIケーブルのプラグを外部ディスプレイのHDMI入力端子に差し込む
2. 外部ディスプレイの電源を入れる
3. HDMIケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のHDMI出力端子に差し込む



メモ

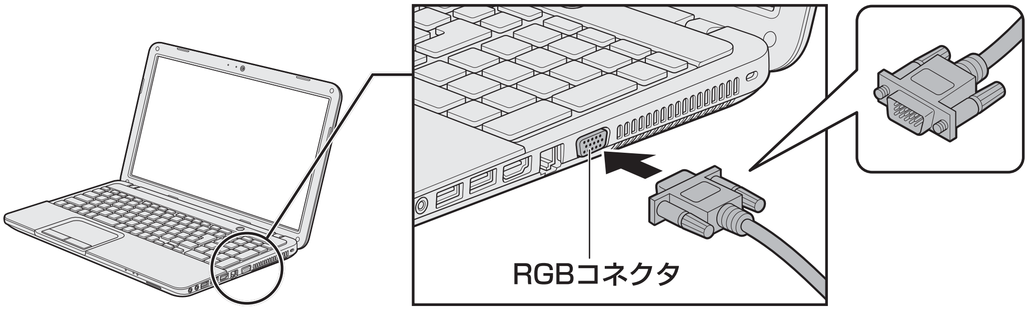
- HDMI接続で、外部ディスプレイに映像を映しているとき、HDMIケーブルを抜いたあと、再度HDMIケーブルを接続する場合は5秒以上間隔をあけてください。
- HDMIケーブルで接続した外部ディスプレイから音声が出ない場合は、「本章 3 - 1 - 音声の出力をパソコン本体のスピーカーからテレビに切り替える」を参照してください。

RGBコネクタに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

本製品のRGBコネクタには固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。



2 外部ディスプレイの電源を入れる

3 パソコン本体の電源を入れる

上の手順で電源を入れると、パソコン本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

2 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 本体液晶ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイだけに表示する
- 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示する
  - ・クローン表示　・拡張表示

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照 表示方法について「本章 3 - 2 表示を切り替える」

切り替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の方法を参考にしてください。

参照 表示方法について「本章 3 - 2 表示を切り替える」

3 パソコンから取りはずす

HDMI出力端子から取りはずす

1 HDMI出力端子からケーブルを抜く

RGBコネクタから取りはずす

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で取りはずしてください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『取扱説明書』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。
この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

5 マイクロホンやヘッドホンを使う

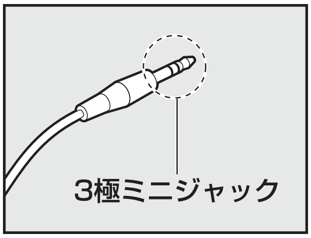
本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

1 マイクロホンを使う

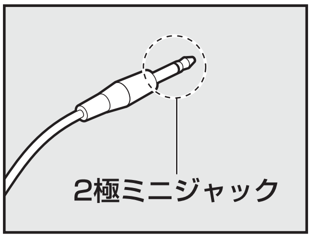
マイクロホンを使うときは、マイク入力端子に接続します。

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。

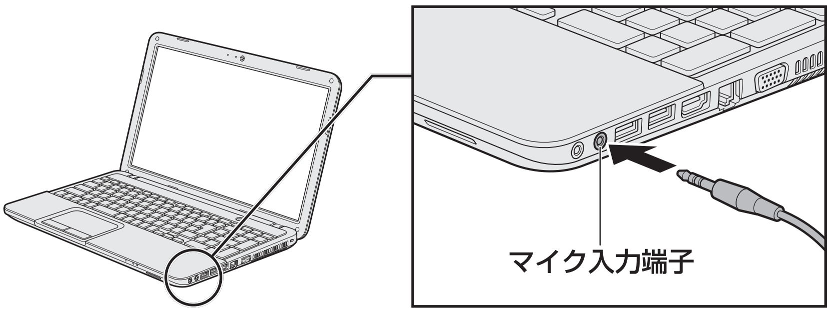


- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを搭載し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い ヘッドホンの操作にあたって

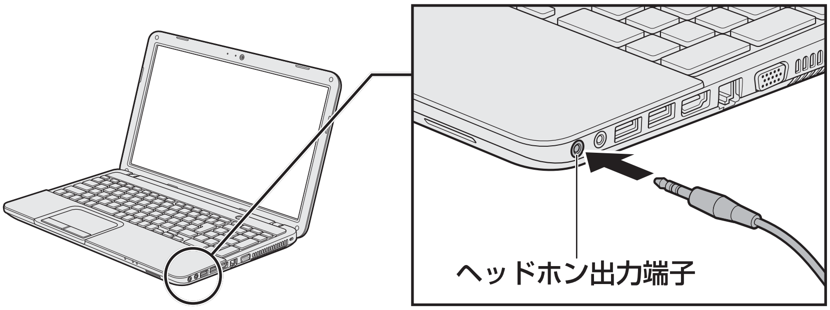
- あらかじめ、「付録 1 - 11 - ヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

ヘッドホンの音量は音量ボタン、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 「2章 8 サウンド」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

5章

バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

1 バッテリーについて

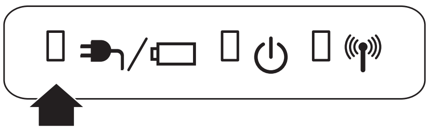
パソコンは、バッテリーパックを取り付けた状態で使用してください。
本製品を初めて使用するときは、電源コードとACアダプターを接続してバッテリーパックを充電してください。
バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケーターで確認する

電源コードとACアダプターを接続している場合、DC IN/Battery / LEDが点灯します。



DC IN/Battery / LEDは次の状態を示しています。

白色の点灯	充電完了
オレンジ色の点灯	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	・バッテリーが装着されていない ・電源コードとACアダプターが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリー］アイコンで確認する



通知領域の［バッテリー］アイコン（ ）の上にポインターを置くと、バッテリー充電量が表示されます。
［バッテリー］アイコン（ ）をクリックすると、電源プランなども表示されます。

参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- DC IN/Battery / LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］や［バッテリ低下の操作］で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

  参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体に電源コードとACアダプターを接続し、充電する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源が切れます。

メモ

- 1ヵ月以上の長期にわたり、パソコンに電源コードとACアダプターを接続したまま使用し続けると、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、DC IN/Battery / LEDや［バッテリー］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。
  1ヵ月に1度はバッテリー駆動で使用することを推奨します。なお、バッテリー駆動で使用する場合、いったんデータを保存してから使用してください。
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らずDC IN/Battery / LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

4 時計用電池

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用電池が内蔵されています。
時計用電池が切れると、メッセージが表示されます。
この場合、時計用電池を交換する必要がありますので、東芝PCあんしんサポートに相談してください。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 12 - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

DC IN/Battery / LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 DC IN/Battery / LEDが白色になるまで充電する

DC IN/Battery / LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。
電源コード、ACアダプターの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳しくは、『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために電源コードとACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッド スリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッド スリープについて「2章 2 - 1 - 2 スリープ機能を強化する」

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を遅くすることができます。

- パソコンを長時間使用しないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもに電源コードとACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの機能低下を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、電源コードとACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

バッテリー消費をおさえる方法

バッテリーの消費をおさえて、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

  参照 「2章 2 - 2 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

  参照 「2章 2 - 3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力の電源プランを設定する

  参照 「本章 2 省電力の設定をする」

バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーパックは、消耗品です。「東芝PCヘルスモニタ」を使用すると、バッテリーパックを交換する目安を調べることができます。

参照 「東芝PCヘルスモニタ」について『取扱説明書』

3 バッテリーパックを保管する

バッテリーパックを保管するときは、次の説明をお読みください。
また、『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』にも、バッテリーパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態のバッテリーパックを放置しておくとバッテリーが機能低下し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この機能低下は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリーパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境に合わせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。

- **eco**
  東芝の推奨する設定により、消費電力をおさえます。
  参照 「本項 1 - 役立つ操作集 - TOSHIBA ecoユーティリティ」

- **省電力**
  パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力をおさえます。
  バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。

- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されます。

＊「省電力」、「高パフォーマンス」は［追加のプランを表示します］の をクリックすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

1 起動方法

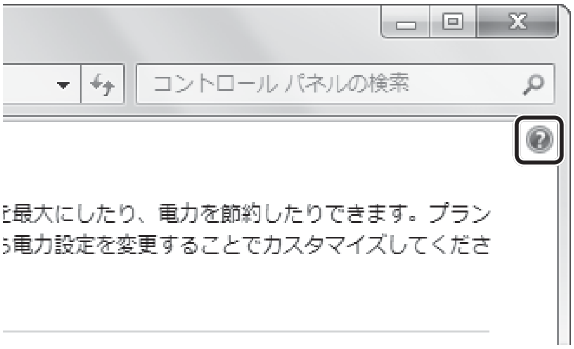
1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする

「電源オプション」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ボタンをクリックする



2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする

該当するページが表示されます。

役立つ操作集

TOSHIBA ecoユーティリティ
東芝の推奨する設定により、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力をおさえます。
詳しくは、「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

- **起動方法**
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［ecoユーティリティ＆省電力］→［ecoユーティリティ］をクリックする
  初回起動時は、［はじめにお読みください］画面が表示されますので、［同意する］をチェックし、［OK］ボタンをクリックしてください。

  ［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面が表示されます。

- **ヘルプの起動方法**
  ①［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面で［ヘルプ］ボタンをクリックする
  「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

お願い 東芝ピークシフトコントロールの使用にあたって

- バッテリーパックは消耗品です。
  バッテリーの充放電を一定期間繰り返すためにバッテリーの使用サイクルが進みますので、バッテリーパックの買い替え時期が早まります。
- 動画再生などのアプリケーションは、省電力機能によりスムーズに動作しない場合があります。

役立つ操作集

東芝ピークシフトコントロール

「東芝ピークシフトコントロール」は、昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現する機能です。たとえば夏期の日中のように、電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に蓄えたパソコンのバッテリーで動作させる電源管理機能で、環境への負荷低減に貢献することができます。
ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。
使用方法については、ヘルプを参照してください。

- **設定方法**
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［ecoユーティリティ＆省電力］→［ピークシフトコントロール］をクリックする
  ② ［東芝ピークシフトコントロール］画面で、［ピークシフト機能］で［有効］を選択し、［適用］ボタンをクリックする
- **ヘルプの起動方法**
  ①「東芝ピークシフトコントロール」を起動後、画面右上の［ヘルプ］ボタン（ ）をクリックする
  ② 画面上の知りたい項目にポインターを置き、クリックする

5章 バッテリー駆動で使う

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。
複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

設定方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする**

「東芝HWセットアップ」が起動します。

2 **各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする**

［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

HWセットアップで再起動が必要な項目の設定を変更すると、パソコンの再起動を行うようメッセージが表示されます。
この場合、すぐに再起動を行って設定を有効にしてください。

メモ

- 選択できない状態になっている（グレーアウトしている）項目は、設定内容の確認のみ行うことができます。

ヘルプの起動方法

1 **［東芝HWセットアップ］画面上で、知りたい項目にポインターを合わせる**

項目に対するヘルプが表示されます。

2 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の3種類があります。

- Windowsログオンパスワード
  - ・Windowsにログオンするとき
  - ・インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバーを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能「2章 4 - 2 - 2 - FN キーを使った特殊機能キー」

- ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード（BIOSパスワード）
  - ・電源を入れたとき
  - ・休止状態から復帰するとき
  - ・東芝パスワードユーティリティを起動して設定するとき

  ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
  通常はユーザーパスワードを登録してください。

- HDDパスワード
  ハードディスクを起動するとき

ここでは、ユーザーパスワード／スーパーバイザーパスワードやHDDパスワードの設定方法について説明します。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違う文字列を使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
  パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有料です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード、HDDパスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベッドの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	- = [ ] ; ' , . / ` & ~ （スペース）など
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号　など ・記号の一部（半角） 【例】¦（バーチカルライン） ¥（エン）など	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう一度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

「東芝HWセットアップ」でユーザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
ユーザーパスワードは、BIOSセットアップの［セキュリティ］メニューでも設定できますが、「東芝HWセットアップ」で設定することをおすすめします。

1 ユーザーパスワードの登録

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする

［東芝HWセットアップ］が起動します。

2 ［パスワード］タブで［ユーザーパスワード］の［登録］をチェックする

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 **[パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする**

パスワードは10文字以内で入力できます。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「＊＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 **[パスワードの確認] に手順 3 で入力したパスワードをもう一度入力し、[OK] ボタンをクリックする**

5 **表示されたメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする**

パスワードが登録されます。

メモ

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

2 ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 **[スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HWセットアップ] をクリックする**

2 **[パスワード] タブで [ユーザーパスワード] の [未登録] をチェックする**

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 **[パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする**

パスワードが削除されます。
パスワードの入力エラーの場合は、もう一度手順 2 から操作を行ってください。
入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう一度手順 1 から削除の操作を行ってください。

4 **表示されたメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする**

3 ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更したい場合は、ユーザーパスワードを削除してから、新たに登録してください。

2 スーパーバイザーパスワード

「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
スーパーバイザーパスワードは、BIOSセットアップの［セキュリティ］メニューでも設定できますが、「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」で設定することをおすすめします。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。
- BIOSセットアップでは、「スーパーバイザーパスワード」のことを「管理者パスワード」と呼びます。

1 「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」の起動方法

1 **［スタート］ボタン（　）→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする**

2 **「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Utilities¥SVPWUTIL.exe」**
または
「C:¥Program Files (x86)¥Toshiba¥Utilities¥SVPWUTIL.exe」
と入力する

3 **［OK］ボタンをクリックする**

2 スーパーバイザーパスワードの登録

1 **［スーパーバイザーパスワード］の［登録］をクリックする**

パスワードを入力する画面が表示されます。

2 **［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする**

パスワードは10文字以内で入力できます。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。
パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

3 [パスワードの確認] にもう一度パスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

4 表示されたメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

[ユーザーパスワードモード] を設定する画面が表示されます。

5 HW セットアップを起動するときにスーパーバイザーパスワードを入力するように設定したい場合は [HW セットアップの起動不可] または [HW セットアップの起動禁止] を選択し、[OK] ボタンをクリックする

6 「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」のメイン画面で [OK] ボタンをクリックする

7 表示されたメッセージを確認し、[はい] をクリックする

スーパーバイザーパスワードが登録されます。

3 スーパーバイザーパスワードの削除

1 [スーパーバイザーパスワード] の [未登録] をクリックする

パスワードを入力する画面が表示されます。

2 [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

3 「スーパーバイザーパスワードユーティリティ」のメイン画面で [OK] ボタンをクリックする

4 表示されたメッセージを確認し、[はい] をクリックする

スーパーバイザーパスワードが削除されます。

3 パスワードの入力

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードが設定されている場合、パソコンまたはBIOSセットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンまたはBIOSセットアップを起動します。

1 登録したとおりにパスワードを入力し、ENTERキーを押す

NUM LOCK LEDは、パスワードを登録したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

1 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップで行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
  ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
  HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの2つを設定することが可能です。

■HDDユーザーパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードを削除すると、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。

■HDDマスターパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDDマスターパスワードはHDDユーザーパスワードの代わりに使えます。HDDユーザーパスワードを忘れた場合でも、HDDマスターパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。
なお、HDDマスターパスワードのみを登録することはできません。

HDDユーザーパスワードとHDDマスターパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、HDDユーザーパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

HDDマスターパスワードの項目は、BIOSセットアップの「HDD/SSDパスワード」の「モード」が「マスター+ユーザー」の場合のみ表示されます。
「マスター+ユーザー」の場合は、HDDマスターパスワードを設定し、続けてHDDユーザーパスワードの設定を行います。

1 電源スイッチを押し、製品ロゴが表示されている間に F2 キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

2 ［セキュリティ］メニューを表示する

3 カーソルを［HDD/SSDパスワード］の下にある［ユーザー］の［設定なし］に合わせ、ENTER キーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、［マスター］の［設定なし］にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。
パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは10文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに［*］（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。

5 ENTER キーを押す

カーソルが［新しいパスワードを確認してください］に移動します。

6 もう一度パスワードを入力する

確認のため、手順 4 と同じパスワードをもう一度入力してください。

7 ENTER キーを押す

パスワードが登録され、［HDD/SSDパスワード］の［ユーザー］に「設定済み」と表示されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTER キーを押し、手順 3 からやり直してください。

8 ［終了］メニューでカーソルを［変更を保存して終了する］に合わせ、ENTER キーを押す

確認の画面が表示されます。

9 カーソルを［はい］に合わせ、ENTER キーを押す

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

4 HDDパスワードの削除

1 電源スイッチを押し、製品ロゴが表示されている間に F2 キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

2 ［セキュリティ］メニューを表示する

3 カーソルを［HDD/SSDパスワード］の下にある［ユーザー］の［設定済み］に合わせ、ENTER キーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、［マスター］の［設定済み］にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。
カーソルが［現在のパスワードを入力してください］に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに［＊］（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTER キーを押す

カーソルが［新しいパスワードを入力してください］に移動します。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTER キーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 ENTER キーを押す

ここでは何も入力しません。カーソルが［新しいパスワードを確認してください］に移動します。

7 ENTER キーを押す

ここでは何も入力しません。パスワードが削除され、［HDD/SSDパスワード］の［ユーザー］に「設定なし」と表示されます。

8 ［終了］メニューでカーソルを［変更を保存して終了する］に合わせ、ENTER キーを押す

確認の画面が表示されます。

9 カーソルを［はい］に合わせ、ENTER キーを押す

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

［HDD/SSDパスワード］の［モード］で［マスター＋ユーザー］を選択した場合は、HDDマスターパスワードの削除を行うと、同時にHDDユーザーパスワードも削除されます。HDDユーザーパスワードのみを削除することはできません。

5 HDDパスワードの変更

1 電源スイッチを押し、製品ロゴが表示されている間に F2 キーを数回押して、BIOSセットアップを起動する

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENTER キーを押してください。

2 ［セキュリティ］メニューを表示する

3 カーソルを［HDD/SSDパスワード］の下にある［ユーザー］の［設定済み］に合わせ、ENTER キーを押す

HDDマスターパスワードの場合は、［マスター］の［設定済み］にカーソルを合わせて ENTER キーを押してください。
カーソルが［現在のパスワードを入力してください］に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに［＊］（アスタリスク）が表示されます。

5 ENTER キーを押す

カーソルが［新しいパスワードを入力してください］に移動します。
入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTER キーを押し、手順 3 からやり直してください。

6 新しいパスワードを入力し、ENTER キーを押す

パスワードは1文字ごとに［＊］（アスタリスク）で表示されますので、画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
カーソルが［新しいパスワードを確認してください］に移動します。

7 もう一度新しいパスワードを入力し、ENTER キーを押す

新しいパスワードが登録され、［HDD/SSDパスワード］の［ユーザー］に「設定済み」と表示されます。
2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。ENTER キーを押し、手順 3 からやり直してください。

8 ［終了］メニューでカーソルを［変更を保存して終了する］に合わせ、ENTER キーを押す

確認の画面が表示されます。

9 カーソルを［はい］に合わせ、ENTER キーを押す

設定した内容が保存され、Windowsが起動します。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れるとパスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTERキーを押す

NUM LOCK LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

メモ

- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

7章

パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

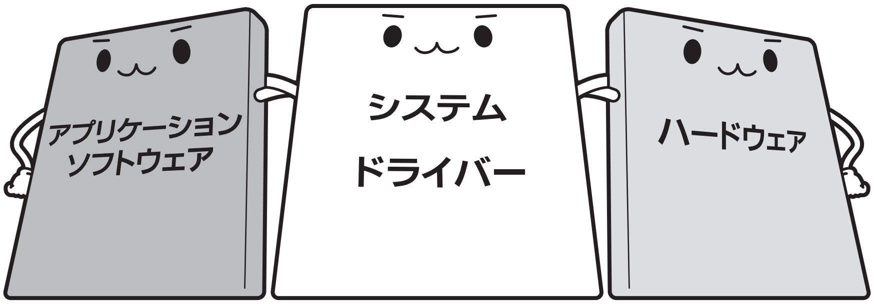
1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成とトラブル対処法を紹介します。

■パソコンを構成する3つの部分



- **アプリケーションソフトウェアとは**
  メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word（ワード）（文書作成ソフト）や Excel（エクセル）（表計算ソフト）、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

- **システム、ドライバーとは**
  システムは、オペレーティングシステム、OS（オーエス）ともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 7です。
  ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

- **ハードウェアとは**
  バッテリー、ACアダプター、ディスプレイ、キーボード、ハードディスク、CPUなどの、パソコン本体や接続する機器を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム（OS）、ドライバー→ハードウェア（パソコン本体）の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 Q&Aを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、『セットアップガイド』などにもQ&Aが記載されているので、あわせて読んでください。

STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。
本書以外のマニュアルも読んでください。

STEP3 サポートのサイトで調べる

東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」へ接続すると、各種サポート情報から解決方法を探すことができます。
「dynabook.com」では、ご利用のパソコンの「よくある質問 FAQ」、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
サポート窓口や修理についても案内しています。

参照 dynabook.comの詳細について『東芝PCサポートのご案内』

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているOSやアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』で確認してください。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『セットアップガイド』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『セットアップガイド』も参照してください。

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 省電力機能が働いた可能性があります。

しばらくタッチパッドやキーボードを操作しないと、画面に表示される内容が見えなくなる場合があります。これは省電力機能が動作したためで、故障ではありません。実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

SHIFT キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。

テレビまたは外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN ＋ F5 キーを３秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「4章 3 - 2 - 2 方法2－ FN ＋ F5 キーを使う」

Q テレビまたは外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A テレビまたは外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

テレビまたは外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照 詳細について「4章 3 - 2 表示を切り替える」

Q テレビまたは外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A テレビまたは外部ディスプレイを接続してください。

テレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに指定して拡張表示の設定をした場合、スリープや休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。

テレビまたは外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A **FN + F7 キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）を明るくしてください**[*1]**。**

FN + F6 キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイは暗くなります。

＊1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

A **本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。**

［電源オプション］には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。

詳しくは、［電源オプション］のヘルプを参照してください。

次の手順で設定を変更してください。[*1]

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

②［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする

③利用する電源プランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする

④［プランの明るさを調整］を設定する

［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。

⑤［変更の保存］ボタンをクリックする

＊1 この設定は、テレビと外部ディスプレイには反映されません。

2 キーボード

Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A **システムが処理中の可能性があります。**

ポインターが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A **文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。**

次の手順でタッチパッドを無効に切り替えてください。

① FN + F9 キーを押す

［タッチパッド］のカードが表示されます。

② FN キーを押したまま F9 キーを押し直し、［無効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、電源コードとACアダプター、バッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

3 タッチパッド／マウス

＊マウスは、別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（ ◎ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。

① FN＋F9キーを押す
　［タッチパッド］のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［有効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
②［ ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
　［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
③［ボタン］タブで［ダブルクリックの速さ］のスライダーバーを左右にドラッグする
④［OK］ボタンをクリックする

Q ポインターの速度を調節したい

A 次の手順でポインターの速度を変更してください。

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
②［ ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
　［マウスのプロパティ］画面が表示されます。
③［ポインター オプション］タブで［速度］のスライダーバーを左右にドラッグする
④［OK］ボタンをクリックする

Q レーザーマウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

Q 光学式マウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。
光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。
光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

4 その他

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに変える

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能のご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「1章 1 - 2 起動方法」を参照して、注意制限事項を確認してください。
- 「PC引越ナビ」をご利用の際は、前のパソコンおよび新しいパソコンで、電源コードとACアダプターを接続した状態で、ご利用ください。
  また、「PC引越ナビ」の実行中は、スリープまたは休止状態にしないでください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割する場合、分割するこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大2,147,483,647ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさ以上の空き容量が、保存先の装置に必要です。

2 パソコン本体について

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

3 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- ハードディスクへのアクセス中は､パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にCD／DVDやUSBフラッシュメモリなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、CD／DVD、USBフラッシュメモリなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

4 CDやDVDについて

CD／DVDの操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて「2章 6 - 4 - CD／DVDが出てこない場合」

- ディスクトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。
- 本製品では、8cm、12cmのCD／DVDのみ使用できます。
  これら以外のCD／DVDは使用できません。

DVD-RAMのフォーマットについて

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

5 「TOSHIBA Active Display Off」について

- 次の場合は、人の顔を正しく検出できずに、本機能が正しく動作しないことがあります。
  ・暗い場合
  ・Webカメラに対して逆光の場合
  ・マスクやサングラスなどを身に着けている場合
  ・着衣や背景などが影響している場合　　など
- Webカメラの撮影範囲内に、人の顔と間違えて検出されるものがある場合は、本機能が正しく動作しないことがあります。この場合は、[TOSHIBA Active Display Off] 画面で撮影範囲を確認し、人の顔として検出される可能性のあるものを撮影範囲から取り除いてください。
- Webカメラを使用するほかのアプリケーションを使用している場合は、本機能が正しく動作しない場合があります。
- 外部ディスプレイを接続している場合は、本機能は動作しません。
- 市販のWebカメラなどの接続機器やソフトウェアなど、当社が関与しない組み合わせによる不具合、その結果生じた不便または損害、本機能の使用から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。

6 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押したりしないでください。画質が低下する原因となります。
  レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。

7 顔照合機能について

- 「TOSHIBA Face Recognition」は本人の認証・照合を保証するものではありません。
  登録者の髪型・帽子の有無・眼鏡の有無など登録時と顔に変化があると認識率が低下する可能性があります。
- 登録者に似ている顔を誤照合する場合があります。
- セキュリティを目的としたWindowsログオンパスワードの置き換えには適しません。
  セキュリティが重要な場合には、適切なWindowsログオンパスワードをログオンにお使いください。
- 周囲の明るさや光の方向の違いがあると、登録者であっても正しく照合できない場合があります。その場合はWindowsログオンパスワードを使ってログオンしてください。
  登録者本人の照合に連続して失敗する場合には、追加学習を行うと照合しやすくなります。
- 顔照合に失敗した顔データをログ情報として記録していますので、パソコンを廃棄するときにはアプリケーションをアンインストールするか、「TOSHIBA Face Recognition」を起動しログを全件削除してください。

- 「TOSHIBA Face Recognition」の使用または使用不能から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 当社は、以下に関していっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。
  - ・付属の説明書の記載内容を守らないことにより生じた不便または損害
  - ・当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる不具合、またはその結果生じた不便または損害
  - ・顔情報や照合履歴など記憶内容の消失、あるいは漏えいなどにより生じるいかなる損害、クレームなど（「TOSHIBA Face Recognition」に登録された顔情報など記憶内容は、お客様の責任において管理願います。）
  - ・何らかの原因による登録・照合に関する不動作。
    および、不動作に起因する損害。

8 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインターフェースを使用するとき、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）*1は、エンハンストカテゴリ５（CAT5e）以上のケーブルを使用してください。
  Fast Ethernet（100BASE-TX）は、カテゴリ５（CAT5）以上のケーブルを使用してください。
  Ethernet（10BASE-T）は、カテゴリ３（CAT3）以上のケーブルが使用できます。
  ＊1 Gigabit Ethernetに対応しているモデルのみ

付録

9 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、本や厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、無線LANアクセスポイントとパソコンとの間を金属板などで遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属製のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、『取扱説明書』を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

10 Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「dynabook.com」を確認してください。

11 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ほこりが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、ゆるめたり、取りはずしたりしないでください。
  - ・作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❑USB接続の外部ディスプレイを使用するにあたって

- USB接続の外部ディスプレイを接続した場合、著作権保護機能に対応していないドライバーがインストールされることにより、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」などのアプリケーションが動作しなくなることがあります。
  これらのアプリケーションを使用される場合は、USB接続の外部ディスプレイの接続やドライバーのインストールを行わないようにお願いします。

❑取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスクドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

付録

テレビ／外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- すべてのテレビまたは外部ディスプレイと接続動作確認は行っていません。したがって、すべてのテレビまたは外部ディスプレイへの表示は保証できません。
  テレビまたは外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- 必ず、映像の再生アプリケーションを起動する前に、表示装置の切り替えを行ってください。起動中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  - ・データの読み出しや書き込みをしている間
  - ・通信を行っている間
- クローン表示にしているときに映像を再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、クローン表示にしないで1つの表示装置に表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示でテレビまたは外部ディスプレイをメインディスプレイに設定した場合、スリープまたは休止状態のときにテレビまたは外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されずに、操作ができなくなることがあります。

- HDMI出力端子にテレビまたは外部ディスプレイを接続しているときに、ほかのコネクタにテレビまたは外部ディスプレイや外部サウンド機器が接続されている場合、画面表示を切り替えたりHDMIケーブルを抜き差ししたりすると、システムによって自動的に画面表示または音声の出力が切り替わることがあります。
- テレビまたは外部ディスプレイに表示したときに、デスクトップ画面の周りに黒い帯が表示され、デスクトップ画面がテレビまたは外部ディスプレイの中央に小さく表示されることがあります。
  その場合は『テレビに付属の説明書』または『外部ディスプレイに付属の説明書』を参照して、テレビまたは外部ディスプレイがサポートしている画面モードに設定してください。適切なサイズと適切なアスペクト比で表示されます。

ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを装着しないでください。雑音が発生する場合があります。
  ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

12 バッテリーについて

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

付録

13 CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD／DVDに書き込む前に

CD／DVDに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。
CD／DVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへの振動や衝撃などの本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCD／DVDの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD／DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD／DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

参照 CD／DVDについて「2章 6 CDやDVDを使う」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず電源コードとACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・スクリーンセーバー
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・音楽や映像の再生アプリケーション
  - ・LANなどの通信アプリケーション　　など

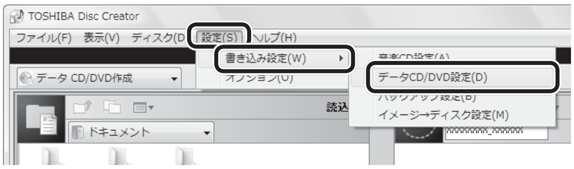
  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモリカード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本体のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本体のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-RAMにデータを書き込むことはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioを作成することはできません。
- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳しくは、「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 著作権保護されているDVD-Videoを「TOSHIBA Disc Creator」を使用してバックアップを作成しても、作成された記録メディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+RからCD-R、CD-RWにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、ほかのソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダーで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。

書き込みを行うにあたって

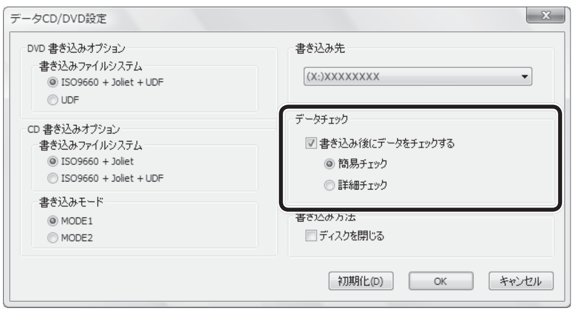
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを自動的にチェック（簡易チェック）するように設定されています。
  設定内容は次の手順で確認できます。
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［マルチメディア］→［Disc Creator］をクリックする
  「TOSHIBA Disc Creator」の［Startup Menu］画面が表示されます。
  ②［データCD/DVD作成］をクリックする
  ③メインウインドウで［設定］をクリックし、［書き込み設定］→［データCD/DVD設定］をクリックする



［データCD/DVD設定］画面が表示されます。
④［データチェック］で［書き込み後にデータをチェックする］がチェックされているか確認する
［簡易チェック］と［詳細チェック］を選択することができます。



⑤［OK］ボタンをクリックする

付録

14 DVDの再生にあたって

＊ドライブ搭載モデルのみ

本項では、「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-Videoフォーマットまたは DVD-VR フォーマットで記録されたディスクを示します。

- 使用するDVDのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- 家庭用DVDレコーダーで録画した、ファイナライズされていないDVDはパソコンで再生できない場合があります。
- DVDの再生には、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」を起動し、DVDを再生してください。
- DVD再生ソフト「TOSHIBA VIDEO PLAYER」では、DVD-VideoとDVD-VRの再生ができます。AVCREC、AVCHDおよびHD Recフォーマットで書き込まれたDVD、Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- DVD再生時は、電源コードとACアダプターの接続をおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができないことがあります。バッテリー駆動で再生するときは電源プランで「高パフォーマンス」を選択してください。
- DVDを再生する前に、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、再生中にはほかのアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」の起動中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」の起動中は、コンピューターのロック状態に移行する操作（Windows＋L キーまたは FN＋F1 キーを押す）をしないでください。
- Region（リージョン）コードは4回まで変更することができますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されておりますので、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
- テレビまたは外部ディスプレイに表示するときは、アプリケーションを起動する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。
  なお、クローン表示、拡張表示での再生をサポートしていません。

  参照 表示装置の切り替え「4章 3 テレビを接続する」
- テレビまたは外部ディスプレイ側の解像度やリフレッシュレートが高い場合、DVD再生画像が正常に表示されないことがあります。その際はいったん再生を終了し、テレビまたは外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてご使用ください。
- テレビまたは外部ディスプレイで映像を再生するとき、画面の設定でリフレッシュレートが「1920×1080 24Hz」に設定されていると、動きの多い映像がなめらかに表示されない場合があります。その場合は、「1920×1080 60Hz」に設定してください。

その他の注意については、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」のヘルプを参照してください。

付録

❏アップコンバート機能について

- アップコンバート機能を有効に設定している場合、再生できるタイトルや使用できる機能に制限があります。
- アップコンバート機能を有効にして再生する場合は、必ず電源コードとACアダプターを接続してください。
- アップコンバート機能を有効にした映像を外部ディスプレイやテレビでご覧になるには、HDCP対応のHDMI入力端子のあるディスプレイやテレビが必要です。
- アップコンバート機能は、本体液晶ディスプレイ、またはHDMI 出力端子に接続したテレビにのみ表示できます。RGBコネクタに接続した外部ディスプレイには、表示させることができません。
- 「TOSHIBA VIDEO PLAYER」のアップコンバート機能の設定については、「TOSHIBA VIDEO PLAYER」のヘルプを参照してください。

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 使えるCDを確認しよう

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカーの記録メディアを使用することを推奨します。
  書き込み速度は、使用する記録メディアによって異なります。
  これらのメーカー以外の記録メディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

記録メディア	書き込み／書き換え速度	推奨メーカー
CD-Rメディア*1	最大24倍速	太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、日立マクセル（株）
マルチスピードCD-RWメディア	最大4倍速	三菱化学メディア（株）
High Speed CD-RWメディア	最大10倍速	
Ultra Speed CD-RWメディア*2	最大24倍速	

＊1 最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
＊2 Ultra Speed+ CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能な記録メディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、記録メディアの状態をよくご確認ください。
- 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファーアンダーランエラー防止機能付き。

2 使えるDVDを確認しよう

■DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプの記録メディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブから記録メディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし＊1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）＊2	○

＊1 一部の家庭用DVDビデオレコーダーでは再生できない場合があります。
＊2 2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカーの記録メディアを使用することを推奨します。
  書き込み速度は、使用する記録メディアによって異なります。
  これらのメーカー以外の記録メディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

記録メディア		書き込み／書き換え速度	推奨メーカー
DVD-R	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電（株）、日立マクセル（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-R DL	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア（株）
	8倍速	最大6倍速	三菱化学メディア（株）
DVD+R	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）
DVD+R DL	2.4倍速	最大2.4倍速	三菱化学メディア（株）
	8倍速	最大6倍速	三菱化学メディア（株）
DVD-RW	4倍速	最大4倍速	日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
	6倍速	最大6倍速	日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
DVD+RW	2.4倍速	最大2.4倍速	三菱化学メディア（株）
	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア（株）
	8倍速	最大8倍速	三菱化学メディア（株）
DVD-RAM	3倍速	最大3倍速	日立マクセル（株）、パナソニック（株）
	5倍速	最大5倍速	日立マクセル（株）、パナソニック（株）

これらより速い書き込み倍速に対応した記録メディアを使用しても、ドライブの書き込み／書き換え速度以上の速度で書き込み／書き換えはできません。

- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RW メディアは書き換え可能な記録メディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、記録メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去する記録メディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、記録メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
  このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。
- ドライブの構造上、記録メディアの傷、汚れ、ほこり、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、記録メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。
- DVD-R DLは、Format4での読み出し/書き込みをサポートしておりません。
- 12cm/8cmディスク対応、Serial ATA接続、バッファーアンダーランエラー防止機能付き。

メモ

- DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、Ver2.1、Ver2.2規格に準拠した記録メディアを使用してください。
- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。
  業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
  一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダーとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。
  また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

3 メディアカードを使うにあたって

1 メディアカードの操作にあたって

- メディアカードへのアクセス中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しくセットされていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずブリッジメディアスロットからメディアカードを取り出してください。ブリッジメディアスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

2 SDメモリカードを使う前に

- ブリッジメディアスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません。
- ブリッジメディアスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- 著作権保護技術CPRMを使用するには、著作権保護技術CPRMに対応しているアプリケーションが必要です。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

SDメモリカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、メディアカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
  Windows上（[コンピューター］画面）でSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

3 マルチメディアカードを使う前に

- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

4 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（CD、DVD、USBフラッシュメモリ、メディアカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、記録メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「Room1048（TID）会員サイトについて」をご覧ください。
https://toshibadirect.jp/supportguide/about_sight.aspx

1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、［東芝お客様登録］アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（　）をダブルクリックする

［お客様登録サービス「Room1048」ご登録のお願い］画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

メモ

- インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスすることもできます。
  登録用ホームページ：http://toshibadirect.jp/room1048/
  商品の追加登録も、登録用のホームページから行えます。

4 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

高調波対策について

JIS C 61000-3-2 適合品
本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

＊ 19V 3.95A以上のACアダプターのみ

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。
VCCI-B

参照 「7章 2 - 4 - Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

「FCC information」について

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's external monitor ports, Universal Serial Bus (USB 2.0 and 3.0) ports, HDMI out port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

EU Declaration of Conformityについて

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe GmbH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany. The complete and official EU Declaration of Conformity can be found on TOSHIBA's web site
http://epps.toshiba-teg.com on the Internet.

CE compliance

This product is labelled with the CE Mark in accordance with the related European Directives, notably Electromagnetic Compatibility Directive 2004/108/EC for the notebook and the electronic accessories including the supplied power adapter, the Radio Equipment and Telecommunications Terminal Equipment Directive 1999/5/EC in case of implemented telecommunication accessories and the Low Voltage Directive 2006/95/EC for the supplied power adapter. Furthermore the product complies with the Ecodesign Directive 2009/125/EC (ErP) and its related implementing measures.
This product and the original options are designed to observe the related EMC (Electromagnetic Compatibility) and safety standards. However, TOSHIBA cannot guarantee that this product still observes these EMC standards if options or cables not produced by TOSHIBA are connected or implemented. In this case the persons who have connected/implemented those options/cables have to provide assurance that the system (PC plus options/cables) still fulfils the required standards. To avoid general EMC problems, the following guidance should be noted:

- Only CE marked options should be connected/implemented
- Only best shielded cables should be connected

Working environment

This product was designed to fulfil the EMC (Electromagnetic Compatibility) requirements to be observed for so-called “Residential, commercial and light industry environments”. TOSHIBA do not approve the use of this product in working environments other than the above mentioned “Residential, commercial and light industry environments”.
For example, the following environments are not approved:

- Industrial Environments (e.g. environments where a mains voltage of 380 V three-phase is used)
- Medical Environments
- Automotive Environments
- Aircraft Environments

Any consequences resulting from the use of this product in working environments that are not approved are not the responsibility of TOSHIBA.
The consequences of the use of this product in non-approved working environments may be:

- Interference with other devices or machines in the near surrounding area.
- Malfunction of, or data loss from, this product caused by disturbances generated by other devices or machines in the near surrounding area.

Therefore TOSHIBA strongly recommend that the electromagnetic compatibility of this product should be suitably tested in all non-approved working environments before use. In the case of automobiles or aircraft, the manufacturer or airline respectively should be asked for permission before use of this product.

Furthermore, for general safety reasons, the use of this product in environments with explosive atmospheres is not permitted.

レーザー安全基準について

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。

⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、「レーザーラベルと表示位置」に記載している表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825-1で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
   本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。
6. ここに規定した以外の手順による制御および調整は、危険なレーザー放射の露光に結びつくことがあります。

次のいずれかの装置が搭載されています。

①Toshiba Samsung Storage Technology　DVDスーパーマルチドライブ
②Panasonic　DVDスーパーマルチドライブ
③Hitachi-LG Data Storage　DVDスーパーマルチドライブ
④TEAC　DVDスーパーマルチドライブ
⑤Sony Optiarc　DVDスーパーマルチドライブ

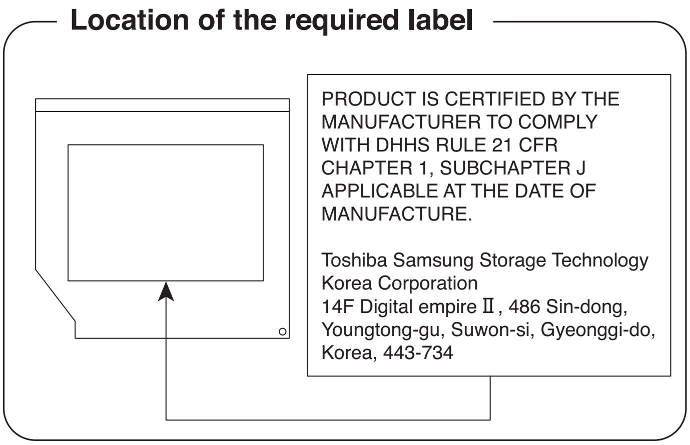
■レーザーラベルと表示位置

①Toshiba Samsung Storage Technologyのレーザーラベル

CLASS 1 LASER PRODUCT
APPAREIL A LASER DE CLASSE 1
LASER SCHUTZ KLASSE 1
PRODUKT
NACH EN 60825-1:1994/A2:2001

DANGER	-VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. (for 21 CFR)
CAUTION	-CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO THE BEAM.
ATTENTION	-LASER DE CLASSE 3B RAYONNEMENT VISIBLE ET INVISIBLE, EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE DE L'OEIL OU DE LA PEAU RAYONNEMENT DIRECT OU DIFFUS.
VORSICHT	-SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG KLASSE 3B, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	-KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING
ADVARSEL	-KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARO!	-LUOKAN 3B NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.
VARNING	-SYNLIG OCH OSYNLIG KLASSE 3B LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
注意	-打开时有3B等级的可见及不可见激光辐射。避免激光束照射。
注意	-ここを開くとクラス3B可視レーザー光及び不可視レーザー光が出ます。ビームに身をさらさないこと。

ラベルの表示位置

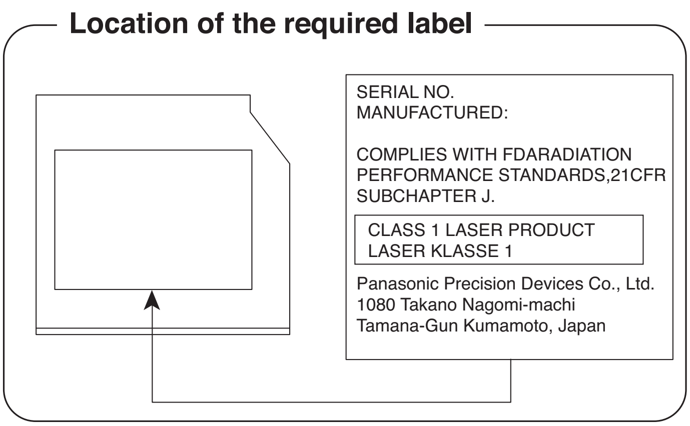


②Panasonicのレーザーラベル

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

ラベルの表示位置



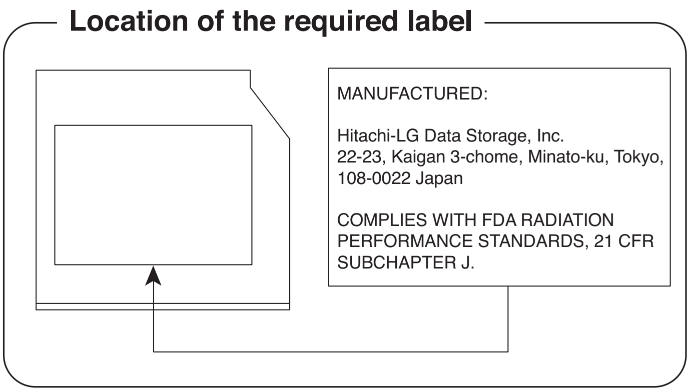
付録

③Hitachi-LG Data Storageのレーザーラベル

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO !	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

ラベルの表示位置



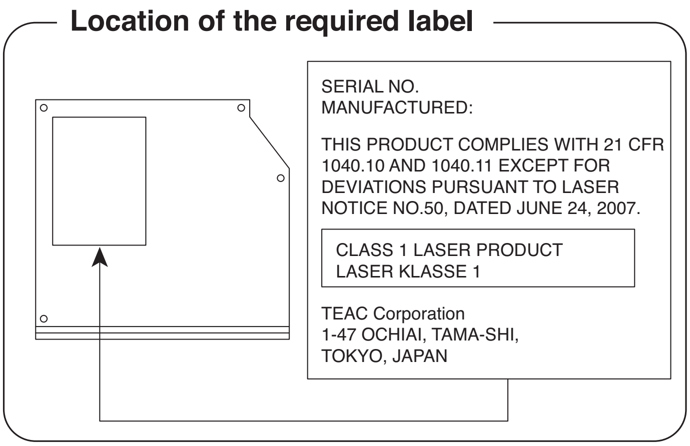
付録

④TEACのレーザーラベル

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNDGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLEN ÄR FARLIG.
VARO！	KURSSI 3B NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.

ラベルの表示位置

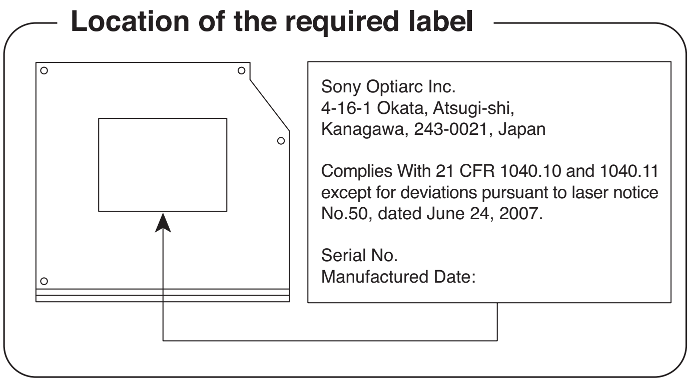


⑤Sony Optiarcのレーザーラベル

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1 PRODUKT

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID DIRECT EXPOSURE TO THE BEAM.
ATTENTION	RADIATIONS LASER VISIBLES ET INVISIBLES DE CLASSE 3B EN CAS D'OUVERTURE. EVITER TOUTE EXPOSITION DIRECTE AU FAISCEAU.
VARO！	AVATTUNA LUOKAN 3B NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖNTÄ LASERSÄTEILYÄ. VÄLTÄ SUORAA ALTISTUMISTA SÄTEELLE.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. UNDVIK ATT DIREKT EXPONERA DIG FÖR STRÅLNINGEN.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING AF KLASSE 3B VED ÅBNING. UNDGÅ DIREKTE UDSÆTTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING I KLASSE 3B NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ DIREKTE EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG WENN GEOFFNËT. DIREKTEN KONTAKT MIT DEN STRHL VERMEIDEN.

ラベルの表示位置



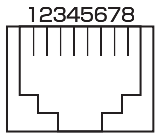
5 各インターフェースの仕様

1 LANインターフェース

❏Gigabit Ethernetに対応しているモデル

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA（＋）	I/O
2	BI_DA-	送受信データA（－）	I/O
3	BI_DB+	送受信データB（＋）	I/O
4	BI_DC+	送受信データC（＋）	I/O
5	BI_DC-	送受信データC（－）	I/O
6	BI_DB-	送受信データB（－）	I/O
7	BI_DD+	送受信データD（＋）	I/O
8	BI_DD-	送受信データD（－）	I/O

コネクタ図



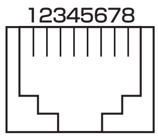
信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

❑ Gigabit Ethernetに対応していないモデル

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	TX	送信データ（+）	O
2	-TX	送信データ（−）	O
3	RX	受信データ（+）	I
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ（−）	I
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図

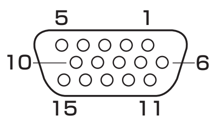


信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

2 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	グランド	
6	GND	グランド	
7	GND	グランド	
8	GND	グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	HSYNC	水平同期信号	O
14	VSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	O

コネクタ図



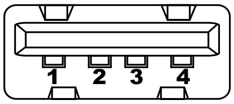
高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 USB2.0インターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	＋5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	グランド	

コネクタ図

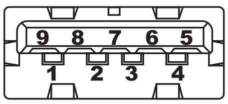


信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

4 USB3.0インターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	＋5V	
2	D-	USB2.0マイナスデータ	I/O
3	D+	USB2.0プラスデータ	I/O
4	GND	グランド	
5	StdA_SSRX-	USB3.0受信マイナスデータ	I
6	StdA_SSRX+	USB3.0受信プラスデータ	I
7	GND_DRAIN	グランド	
8	StdA_SSTX-	USB3.0送信マイナスデータ	O
9	StdA_SSTX+	USB3.0送信プラスデータ	O

コネクタ図

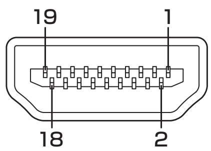


信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

5 HDMI出力端子

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	TMDS Data2+	TMDSデータ（2＋）	O
2	TMDS Data2 Shield	TMDSデータ（2）シールド	
3	TMDS Data2-	TMDSデータ（2－）	O
4	TMDS Data1+	TMDSデータ（1＋）	O
5	TMDS Data1 Shield	TMDSデータ（1）シールド	
6	TMDS Data1-	TMDSデータ（1－）	O
7	TMDS Data0+	TMDSデータ（0＋）	O
8	TMDS Data0 Shield	TMDSデータ（0）シールド	
9	TMDS Data0-	TMDSデータ（0－）	O
10	TMDS Clock+	TMDSクロック（＋）	O
11	TMDS Clock Shield	TMDSクロックシールド	
12	TMDS Clock-	TMDSクロック（－）	O
13	Reserved	予約	
14	Reserved	予約	
15	SCL	SCLデータクロック信号	O
16	SDA	SDA通信信号	I/O
17	DDC/CEC Ground	DDC/CEC信号グランド	
18	+5V Power	電源	
19	Hot Plug Detect	ホットプラグディテクト	I

コネクタ図



信号名　　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

6 OSの切り替えについて

Windows 7をご利用になる場合、64ビット版と32ビット版の2つのWindows 7を選択してご利用いただけます。
ここでは、各OSのご使用上の注意事項や、OSを切り替える際の手順や注意事項を記載しています。OSを切り替える際には、必ずお読みください。
OSの切り替えは、Windows 7でのみ可能です。OSを切り替えるには、リカバリーをする必要があります。リカバリーについては、『セットアップガイド』を確認してください。

メモ　リカバリーメディアの作成について

- Windows 7上で「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成すると、64ビット版／32ビット版の両方に対応したリカバリーメディアを作成することができます。64ビット版／32ビット版のどちらのWindows上でも、作成されるリカバリーメディアは同じです。
リカバリーメディアの作成については「1章 **2** リカバリーメディアを作る」を確認してください。

1 64ビット版を使用する場合

1 64ビット版のご使用にあたって

64ビット版のご使用にあたって、次の事項を必ずお読みください。

- 64ビット版のパフォーマンスを発揮するには、64ビット版に対応したアプリケーションとドライバー類が必要です。
- 64ビット版を使用する場合、64ビットに対応していないドライバーや周辺機器は動作しません。
- 64ビット版を使用する場合、32ビット版用のアプリケーションは動作しないものがあります。
- 64ビット版を使用する場合、16ビット版用のアプリケーションは動作しません。

付録

2 64ビット版を使用する場合の注意事項

本書や『取扱説明書』には、32ビット版を使用した場合の記載になっているため、操作や仕様などが、記載された内容と一部異なります。ここでは、操作や仕様が異なる部分について説明します。
システムやお使いのモデルのソフトウェア環境によっては、このほかにも一部動作が異なる場合があります。

「Internet Explorer」について

64ビット版には、64ビット版の「Internet Explorer」と32ビット版の「Internet Explorer」の2つがインストールされています。
インターネットのサイトの中には、「Internet Explorer」の64ビット版では正常に表示されないものがあります。
この場合は、「Internet Explorer」の32ビット版をご利用ください。

2 32ビット版を使用する場合

1 32ビット版を使用する場合の注意事項

- 64ビット版対応の一部機能を使用できないことがあります。
- OSが使用可能なメモリ領域は最大3GBになります。

3 OSを切り替える場合の操作と注意事項

OSを切り替えるには、リカバリー（再セットアップ）が必要です。

1 OSを切り替えると

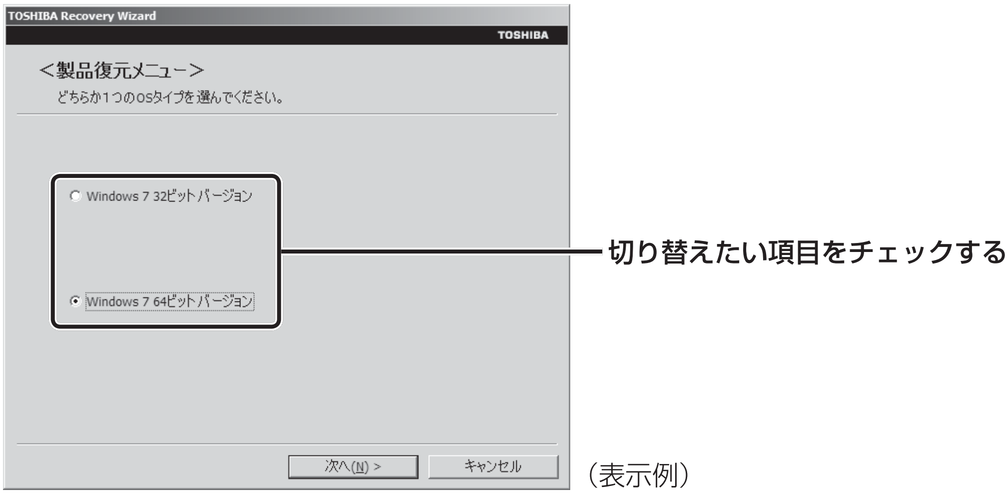
- プレインストールアプリケーションの構成が一部変更になります。
  詳しくは、「本節 1 - 2 64ビット版を使用する場合の注意事項」、「本節 2 - 1 32ビット版を使用する場合の注意事項」をご確認ください。
- バックアップをとったデータが一部使用できない場合があります。
- 控えておいた設定が一部使用できない場合があります。

2 リカバリーをする前に

リカバリーをするとハードディスク内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windows ログオンパスワードなど）もご購入時の状態に戻ります。
リカバリーをする前に、記録メディア（CDやUSBフラッシュメモリなど）にバックアップをとってください。また、リカバリー後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

3 リカバリー方法

リカバリーの手順や詳細は、『セットアップガイド』を確認してください。
リカバリー操作の途中で、次のような［製品復元メニュー］画面が表示されます。
32ビット版に変更する場合には［Windows7 32ビットバージョン］を、64ビット版に変更する場合には［Windows7 64ビットバージョン］をチェックして、［次へ］ボタンをクリックしてください。



（表示例）

付録

4 Windowsの確認方法

Windowsセットアップ終了後は、次の手順で、現在使用しているWindowsの種類を確認できます。

1 [スタート]ボタン（ ）→[コントロールパネル]をクリックする

2 [システムとセキュリティ]をクリックする

3 [システム]をクリックする

4 表示された画面で、[システムの種類]を確認する



（表示例）

7 Windows XP Modeについて

Windows 7 Professionalでは、仮想的にWindows XP環境を実現するための「Windows XP Mode」が用意されています。
「Windows XP Mode」を実行するには、次にように操作してください。

1 インストール方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

3 ［Windows関連］タブをクリックする

4 画面左側の「Windows XP Mode」をクリックする

画面のメッセージに従って、「Windows Virtual PC」と「Windows XP Mode」をインストールしてください。
「XXXX（ファイル名）を実行または保存しますか？」というメッセージが表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

2 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Windows Virtual PC］→［Windows XP Mode］をクリックする

Windows XP Modeが起動します。
初回起動時にはセットアップが必要です。画面のメッセージに従ってセットアップを行ってください。

付録